

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	三田村 雅人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-1222	2	2 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部学部共通科目 人間学関連科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
授 業 の 内 容					
郷土に関係する作家や文学作品や昔話おとぎ話等を取り上げ読解する。読むことで得た知識をもとに簡単な文学作品を創作する。					
授 業 の 到 達 目 標					
古今の郷土に関係のある文学作品や作家の生き方に触れることで、それぞれの時代にふるさとに生きた人々の思想や願いに思いをはせるとともに、創作活動に必要な文章構成や表現の工夫などの基礎的な知識を身につけることができる。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述:)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第1回:授業概要の説明及び受講の心構え 事前学習:今までの自分の読書生活を振り返り、この講義で学びたいことややってみたいことなどについて、簡単なスピーチができるようにしておくこと。(2 時間) 事後学習:「ビブリオバトル」のルールについて、図書やインターネット等で調べておくこと。(2 時間)					
第2回:郷土(武生・今立)の文学概論 (発表・ディスカッション) 事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間) 郷土に関連のある作家や文学作品の中で興味のあるものについて調べ、ノートにまとめておくこと。 事後学習:越前市東部(味真野地区・今立地区)の文化遺産について調べ、ノートにまとめておく(2 時間)					
第3回:郷土の文学①いわさきちひろと絵本 (発表・ディスカッション) 事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間) 「いわさきちひろ」について、図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。 事後学習:安曇野と東京のちひろ館やちひろの絵の技法について調べ、ノートにまとめておくこと。(2 時間)					
第4回:郷土の文学②加古里子とかこさとし絵本館 (発表・ディスカッション) 事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間) 「かこさとし」について図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。 事後学習:かこさとし公園やかこさとしの絵の技法について調べ、ノートにまとめておくこと。(2 時間)					
第5回:文学散歩①学外研修(2コマ連続 フィールドワーク)					
第6回:文学散歩②学外研修 事前学習:越前市内の文学遺産について調べ、「文学散歩」に参加する上での課題や計画をグループごとに立てておくこと。(4時間) 事後学習:「文学散歩」における取材内容、収集した資料などを整理しておくこと。(4時間)					
第7回:文学散歩③研修のまとめ「郷土の文学新聞」制作 事前学習:文学散歩で収集した資料をもとに「郷土の文学新聞」のレイアウトを作成しておくこと。(2 時間) 事後学習:「郷土の文学新聞」を完成させること。(2 時間)					
第8回:郷土の文学③橘曙覧と独楽吟 (発表・グループワーク) 事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間) 「橘曙覧」について、図書館やインターネットで調べておくこと。 事後学習:「平成独楽吟集」を読み、曙覧の句と比べて社会的背景や先人の物の見方・感じ方について感想をノートにまとめておくこと。(2 時間)					
第9回:郷土の文学④「山川登美子・水上勉・高見順」(発表・ディスカッション) 事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間) 「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者について調べ、ノートにまとめておくこと。 事後学習:「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者の作品を読み、特徴や文学史上の位置づけにつ					

いてノートにまとめておくこと。(2 時間)	
第 10 回:神話・昔話の世界①小学校1年生の教科書教材 (発表・ディスカッション)	
事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと (2 時間)	
日本の神話や昔話(古事記・宇治拾遺物語・御伽草子等)について調べ、ノートにまとめておくこと。	
事後学習:授業中に紹介された日本の説話集について、図書館で調べたりオフィスアワーの時間に担当教員に質問したりすること。(2 時間)	
第 11 回:神話・昔話の世界②原典や絵本等を読む (発表・ディスカッション)	
事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間)	
西洋の昔話(グリム・アンデルセン・ペロー等)について調べ、ノートにまとめておくこと。	
事後学習:授業中に紹介された西洋の昔話・おとぎ話について、図書館で調べたりオフィスアワーの時間に担当教員に質問したりすること。(2 時間)	
第 12 回:韻文(詩・短歌・俳句)の世界 (発表・ディスカッション)	
事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間)	
俳句(文学史、季語)について調べ、ノートにまとめておくこと。	
事後学習:興味のある俳人、歌人、詩人の人物像や作品について調べ、ノートにまとめておくこと。(2 時間)	
第 13 回:童話の創作① (発表・ディスカッション)	
事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間)	
日本の昔ばなしや西洋のおとぎ話をテーマにした絵本・児童向け作品集を読み、あらすじと感想をノートにまとめておくこと。	
事後学習:幼児教育における昔話やおとぎ話の意義について、意見をノートにまとめておくこと。(2 時間)	
第 14 回:童話の創作② (発表・ディスカッション)	
事前学習:ビブリオバトルができるように準備しておくこと。(2 時間)	
課題の続きをすること。	
事後学習:授業の課題(日本の説話集から作品を選び、現代の社会状況に合わせて書き直す)を完成させること。(2 時間)	
第 15 回:創作童話の合評会 (プレゼンテーション)	
事前学習:ビブリオバトルで自分が取り上げた作品について、ワークシートにまとめておくこと。(2 時間)	
事後学習:本授業を受講して印象に残ったことや更に調べてみたいことなどをノートにまとめておくこと。(2 時間)	
成績評価方法	
学期末レポート(50%)、授業内の課題(30%)、平常点(20%)	
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)	
成績評価基準	
古今の郷土に関係する作家や作品について理解を深めたか。作品創作に必要な手順や方法など基礎的な知識を理解して、文章構成や表現に留意した作品が書けたか。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて	
■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール	
□ その他(具体的に記述:)	
2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて	
□ 授業時 □仁大 eラーニング □ メール	
□ その他(具体的に記述:)	
3)小レポートに対するフィードバックについて	
□ 授業時 □仁大 eラーニング □ メール	
□ その他(具体的に記述:)	
4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて	
□ 定期試験時 □仁大 eラーニング □ メール	
□ その他(具体的に記述:)	
5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて)	
□ 授業時 □仁大 eラーニング □ メール	
□ その他(具体的に記述:)	
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴	
(元小・中学校教諭)	
・実務経験と授業内容との関連性	
(学校現場における教員経験を有する教員が、ふるさと教育の視点から福井県や越前市の文化や文学者について解説したり、青少年期における読書活動の意義・重要性について講義する。)	
テキスト、参考図書	
テキストは、使用しません。参考図書は、その都度指示します。	
その他(受講上の注意)	
毎回、ビブリオバトルをします。(1冊本を読んでおく)	
オフィスアワー	
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。	

生活と環境D (Life Science and the Environment D)			担当教員	藤原 英一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HL-2232	2	2 年後期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間生活学部学部共通科目 環境・健康生活科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
授 業 の 内 容					
これからの時代にふさわしい生活環境のあり方、人や環境にやさしい生活者、まちづくりの担い手となるための知識やノウハウを学ぶ。					
授 業 の 到 達 目 標					
持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる人と自然にやさしい生活環境づくりに向けて、以下のとおり、我々が行動すべきこと、地域社会に働きかけるべきことを体得することを目指す。 ○人と環境にやさしいまちづくりに関する知識・考え方を体得する ○人と環境にやさしいライフスタイル・暮らし方に関する知識・考え方を体得する ○ワークショップ手法を通じて、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる能力を高める					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述:)					
授業計画及び授業外の学修方法					
授業は講義形式を中心とし、節目節目において課題のプレゼンテーションを交える。 第 1 回 :まちづくり 事前学習:まちづくりに関する事前調査(2時間) 事後学習:授業の復習(2時間) 第 2 回 :景観と景観まちづくり～暮らしを豊かにする風景・景観～ 事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習:授業の復習(2時間) 第 3 回 :デザイン～社会問題を解決するデザイン～ 事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習:授業の復習(2時間) 第 4 回 :幸せな地域にあるもの①～社会の課題・地域の課題とその解決策～ 事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習:授業の復習(2時間) 第 5 回 :幸せな地域にあるもの②【グループワーク】 事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習:グループワークでの調査(2時間) 第 6 回 :幸せな地域にあるもの③【グループワーク】 事前学習:グループワークに関する事前調査(2時間) 事後学習:グループワークの復習(2時間) 第 7 回 :コンパクトシティ①～今後必要となるライフスタイル・暮らし方～ 事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習:授業の復習(2時間) 第 8 回 :コンパクトシティ② 事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習:授業の復習(2時間) 第 9 回 :シビックプライド①～まちと自分の関係～ 事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間) 事後学習:授業の復習。(2時間)					

第 10 回:シビックプライド②【グループワーク】

事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査。(2時間)

事後学習:グループワークの復習(2時間)

第 11 回:リノベーション～豊かな暮らし、自分がしたい暮らし方

事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間)

事後学習:授業の復習(2時間)

第 12 回:公共空間の再構築①～これからの時代に必要な公共空間～

事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間)

事後学習:授業の復習(2時間)

第 13 回:公共空間の再構築②

事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間)

事後学習:授業の復習(2時間)

第 14 回:公共空間の最構築③+ワークショップⅣ【グループワーク】

事前学習:前回授業で与えられたテーマに関する事前調査(2時間)

事後学習:グループワークでの調査(2時間)

第 15 回:私たちが考えるこれからのまちづくりの提案【発表(プレゼンテーション)】

事前学習:プレゼンテーションの作成(2時間)

事後学習:授業の復習(2時間)

成績評価方法

出席状況および出欠アンケートの内容 70%、グループワークショップ・プレゼンの内容 10%、受講姿勢・意欲 20%で評価を行う。

成績評価基準

成績評価の基準は、授業の到達目標に対する学修成果の達成度を以下の基準に基づいて評価する。

○人と環境にやさしいまちづくり・ライフスタイルに関して必要となる視点やその理由に関する理解度

○ワークショップ手法の理解度、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる技術等の体得状況

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(総合建設コンサルタント(都市計画、建設、土地区画整理等)勤務)

・実務経験と授業内容との関連性

(都市計画やまちづくりの専門家としての経験を有する教員が、まちづくり、景観、シビックプライド等の視点から、持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる知識や考え方の体得、地域社会に対して主体的に行動する意識の醸成を目的として講義を行う。)

テキスト、参考図書

参考文献

『地域を変えるデザイン』 寛裕介著(英治出版)2011 年

『都市から学んだ10のこと まちづくりの若き仲間たちへ』 西村幸夫著(学芸出版社)2019 年

『都市計画学: 変化に対応するプランニング』 中島直人他著(学芸出版社)2018 年 他

その他(受講上の注意)

授業の妨げとなる行為(私語、携帯、受講姿勢不良等)が著しい者には退席を命ずることがある。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

キャリア・デザイン I (Career Design I)			担当教員	植月 百枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-2161	2	1 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を身に付ける。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
授 業 の 内 容					
変化の激しい時代、これが正しいというキャリアモデルはない。知人・友人などのネットワークや、自ら考え学び自分は将来どのような仕事をしたいのか、どうありたいのかを常に探求していくことが重要である。 この授業では、キャリア形成と仕事へのアプローチのために必要なことは何かを自ら考え、挨拶・電話対応・ビジネス文書作成などの実践を通してビジネス社会での基本マナーとルールを身につけていく。					
授 業 の 到 達 目 標					
・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得する。 ・社会人のマナーやルールを理解する。 ・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションを修得する。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回： 学生時代に学ぶこと、考えること 事前学習：大学時代にやるべきことは沢山ある。自分のなすべきこと、やりたいことを考えまとめておくこと。(2 時間) 事後学習：自身の未来に思いをはせ、具体的に挑戦したいことをまとめ、ノートに記入することを課す。(2 時間)					
第 2 回： コミュニケーションの基本 事前学習：授業前にテキストの第 1 編第 1 章を読み、社会が求める期待される社会人について考えておくこと。(2 時間) 事後学習：良好なコミュニケーションのために気をつけることをまとめ、ノートに記入することを課す。(2 時間)					
第 3 回： ビジネスマナーの基本① 事前学習：授業前にテキストの第 1 編第 3 章を熟読し、なぜ社会人になるとビジネスマナーが必要なのか考えておくこと。(2 時間) 事後学習：ビジネスマナーの心と形について具体的にまとめておくこと。(2 時間)					
第4回ビジネスマナーの基本② 事前学習：ビジネスマナーの心をあらわす形の具体例は身近にある。今一度自分の周りのマナーについて考えをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：お辞儀や挨拶を実践しよう。マスクをしておのコミュニケーションのとり方を考え実践すること。(2時間)					
第 5 回：指示の受け方と、報告・連絡・相談 事前学習：テキスト第1編第 4 章を熟読し、理解を深めること。(2 時間) 事後学習：本日の授業の内容を報告してみよう。ワードで提出のこと。(2 時間)					
第 6 回： 話し方ときき方のポイント 事前学習：授業前にテキスト、第 1 編第 5 章を熟読し理解を深めること。(2 時間) 事後学習：きき方には 3 種類ある。きき方について学んだことをまとめ、ノートに記入することを課す。(2 時間)					
第 7 回： ビジネス文書、ビジネスメール① 事前学習：授業前にテキストの第 2 編第 2 章を熟読し理解を深めること。(2 時間) 事後学習：ビジネス文書の役割、特徴、種類などをノートにまとめておくこと。(2 時間)					
第 8 回： ビジネス文書、ビジネスメール② 事前学習：仕事のメールとプライベートなメールの違いを改めて考え、同じ内容で、ビジネス用、プライベート用を作成してみること。(2 時間) 事後学習：身のまわりの文書(書類、手紙、はがき)を点検し、書き方を確認すること。復習課題を課す。(2 時間)					
第 9 回：電話応対の基本と重要性 事前学習：授業前にテキストの第 2 編第 3 章を熟読し理解を深めること。電話応対に関することをまとめておくこと。					

(2 時間) 事後学習:プリントを熟読し、声に出して電話対応の仕方を練習すること。復習課題を課す。(2 時間) 第 10 回: 敬語の種類と必要性 事前学習:授業前にテキストの第 1 編第 5 章を読み理解を深めること。敬語の使い方の最近の傾向について調べること。 (2 時間) 事後学習:敬語についての復習問題の課題を課す。(2 時間) 第 11 回: 情報収集と効果的な活用法 事前学習:授業前にテキストの第 2 編第 5 章を熟読し、さまざまな情報源について調べ理解を深めること。(2 時間) 事後学習:情報源の活用について復習課題を課す。(2 時間) 第 12 回:新聞の読み方・コンプライアンス 事前学習:テキスト第 2 編第 5 章を熟読し、日ごろから新聞を読んでおくこと。(2 時間) 事後学習:コンプライアンスに抵触する事例を調べてワードで提出することを課す。(2 時間) 第 13 回:面談・訪問の基本マナーと名刺交換 事前学習:テキスト第 1 編第 6 章を熟読すること。(2 時間) 事後学習:訪問から面談への流れをまとめ、実際に名刺を作成し名刺交換の練習をすること。(2 時間) 第 14 回:仕事への取り組み方 事前学習:テキスト第 1 編第 1 章を改めて熟読すること。仕事への取り組みは大学での学習への取り組みともいえる。どのように学習のやり方に取り入れられるか考えてみること。(2 時間) 事後学習:自身の学習を、効率的に、合理的に進めるためには具体的にどのようにすればよいかまとめておくこと。(2 時間) 第 15 回:会社を取り巻く環境と経済の基本 事前学習:第 2 編第 6 章を熟読し、巻末のビジネス用語にも目を通しておくこと。(2 時間) 事後学習:コロナ禍の 2020 年を起点に経済環境の変化が加速することは間違いない。その中で求められる人材はどのような人物か、そして「人に敬意を払う」ということはどういうことかを考え続けて欲しい。(2 時間) 第 16 回:定期試験	
成績評価方法	
定期試験(50%)、平常点(50%)	
* 平常点は課題の提出回数、内容などを総合して判断する。	
成績評価基準	
・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得しているか。 ・社会人のマナーやルールを理解しているか。 ・遠隔授業に真摯に取り組んでいるか。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大 e ラーニング ☒ メール ☐ その他(具体的に記述: _____) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述: _____) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述: _____) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大 e ラーニング ☒ メール ☐ その他(具体的に記述: _____) 5) その他(自由記述: _____ に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☒ メール ☐ その他(具体的に記述: _____)	
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経 歴 (フリーアナウンサー) ・実務経験と授業内容との関連性 (民間放送局のアナウンサーとして20年間勤務した経験を有する教員が、卒業後のキャリア形成を見据えて大学時代に探求、考察すべきことや、コミュニケーションの実践方法、ビジネスマナー等について講義する。)	
テキスト、参考図書	
『2021 年版ビジネス能力検定ジョブパス 3 級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター	
その他(受講上の注意)	
上記の授業計画は予定である。授業の進行状況によって変更することもある。	
オフィスアワー	
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。	

キャリア・デザインⅡ (Career DesignⅡ)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HL-2261	2	2 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学修経験 ■キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
資格・免許の要件については学生便覧参照のこと					
授 業 の 内 容					
社会の中での役割を主体的に果たしながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。					
授 業 の 到 達 目 標					
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。 ・「はたらく」と大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回:キャリア・デザインとは 事前学習:キャリア・デザインの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:授業で課されたライフストーリーについて、レポートにまとめておくこと。(2 時間)					
第 2 回:スキルアップ 事前学習:スキルと資格の必要性について考えるため、それについて自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)					
第 3 回:ライフストーリー① 事前学習:ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)					
第 4 回:ライフストーリー② 事前学習:ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)					
第 5 回:ライフストーリー③(グループワーク・発表) 事前学習:各自調査したライフストーリーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)					
第 6 回:職業理解① 事前学習:金融業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) ※金融業界は予定です(変更する場合があります)。					
第 7 回:職業理解② 事前学習:マスコミ業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) ※マスコミ業界は予定です(変更する場合があります)。					
第 8 回:職業理解③ 事前学習:流通業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) ※流通業界は予定です(変更する場合があります)。					
第 9 回:「はたらく」とは 事前学習:「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)					
第 10 回:ライフ・デザイン①					

事前学習:ライフ・デザインについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第11回:ライフ・デザイン②
事前学習:ライフ・デザインについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第12回:インターンシップ
事前学習:「インターンシップ」参加の意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第13回:就職活動
事前学習:就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第14回:労働法
事前学習:「労働法」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第15回:まとめ
事前学習:「はたらく」と大学生活での「学び」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
成績評価方法
課題に対する活動内容・提出物(70%)、平常点(30%) ※平常点:授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの
成績評価基準
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。 ・「はたらく」と大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
5) その他(自由記述:リアクションペーパーに対するフィードバックについて) ☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (元情報通信会社管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当)) ・実務経験と授業内容との関連性 (情報通信会社で管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当)経験のある教員が、社会の中での役割を主体的に果たしながら「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できるような機会を提供する。)
テキスト、参考図書
テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。
その他(受講上の注意)
民間企業を前提としたプログラム構成となっており、幅広い視野を養うことを狙いとしています。また、なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

臨床栄養学Ⅰ(栄養療法) (Clinical NutritionⅠ (Dietetic Therapy))			担当教員	佐藤 裕保	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2345	2	3 年前期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)					
授 業 の 内 容					
消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について学習する。					
授 業 の 到 達 目 標					
疾病と栄養・食事療法の関連を理解する。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他(学生は毎回 100 文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回:ガイダンス、傷病者に対する栄養(その他) 事前学習:傷病者に対する栄養について、インターネットなどにて予習(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 2 回:消化器疾患:逆流性食道炎・胃十二指腸潰瘍(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 3 回:消化器疾患:クローン病・潰瘍性大腸炎(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 4 回:消化器疾患:急性肝炎・慢性肝炎(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 5 回:消化器疾患:肝硬変・膵炎(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 6 回:代謝疾患:糖尿病(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 7 回:代謝疾患:肥満・メタボリックシンドローム(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 8 回:代謝疾患:脂質異常症(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 9 回:代謝疾患:高尿酸血症(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間) 第 10 回:循環器疾患:狭心症・心筋梗塞(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間)					

第 11 回:循環器疾患:高血圧(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間)

第 12 回:腎疾患:ネフローゼ症候群(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間)

第 13 回:腎疾患:慢性腎臓病・透析(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間)

第 14 回:先天性代謝異常:フェニルケトン尿症(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間)

第 15 回:小児疾患:食物アレルギー・質疑応答(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2 時間)

第 16 回:定期試験

事前に資料を UP するので、事前学習に用いること。その際、基礎科目との知識の連携を心がけること。併せて、各疾病と関連する解剖生理学・生化学などの復習を含めること。

事後学習においては、関連する基礎科目の知識と統合できるように復習すること。

成績評価方法

定期試験(80%)平常点(20%)

(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

疾病と食事・栄養療法の関連を説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング ■ メール

□ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

■ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング ■ メール

□ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて)

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(管理栄養士)

・実務経験と授業内容との関連性

(病院勤務経験を活かし、疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について解説する。)

テキスト、参考図書

必要に応じて資料配布

その他(受講上の注意)

毎回、授業内容に対する質問もしくは感想の提出を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

臨床栄養学Ⅲ(チーム医療) (Clinical Nutrition Ⅲ (Team Healthcare))			担当教員	佐藤 裕保	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-A-2347	2	3 年後期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
管理栄養士国家試験受験資格(必修)					
授 業 の 内 容					
医療・介護保険における管理栄養士業務、チーム医療における管理栄養士の役割について学習する。 チーム医療の一員として活動するための知識を学習する。					
授 業 の 到 達 目 標					
チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解する。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他(学生は毎回 100 文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回:ガイダンス、チーム医療への参画がなぜ必要か(その他) 事前学習:チーム医療について、図書館・インターネットなどにて予習(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 2 回:医療保険制度Ⅰ(制度概要・入院時食事療養)(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 3 回:医療保険制度Ⅱ(特別食加算)(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 4 回:医療保険制度Ⅲ(入院基本料・NST 加算)(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 5 回:医療保険制度Ⅳ(栄養食事指導料)(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 6 回:介護保険制度(制度概要・療養食加算・居宅療養管理指導)(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 7 回:医療・介護保険制度まとめ(グループワーク)(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 8 回:NST・ターミナルケア(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 9 回:管理栄養士としての倫理(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					
第 10 回:米国の RD(その他) 事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)					

第 11 回:リスクマネジメント・災害時対応(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)

第 12 回:クリティカルパス(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)

第 13 回:医薬品と食品の相互作用 I (医薬品とは)(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)

第 14 回:医薬品と食品の相互作用 II (実例)(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)

第 15 回:チーム医療における管理栄養士・質疑応答(グループワーク)(その他)

事前学習:配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2 時間)

第 16 回:定期試験

毎回終了時に次のプリントを配布するので、事前学習に用いること。併せて、2-6 回は「健康管理概論」「社会福祉論」における関連部分の復習を含めること。

事後学習においては、他の臨床栄養学科目の知識と統合できるように復習すること。

成績評価方法

定期試験(80%)平常点(20%)

(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)

成績評価基準

チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング ■ メール

□ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング ■ メール

□ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて)

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(管理栄養士)

・実務経験と授業内容との関連性

(病院勤務経験を活かし、管理栄養士に係る医療保険および介護保険の実際、医療施設および介護施設における、多職種連携の実際について解説する。)

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布

その他(受講上の注意)

毎回、授業内容に対する質問もしくは感想の提出を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

臨床栄養学実習 I (食事療法) (Clinical Nutrition Practicum I (Dietetic Therapy))			担当教員	佐藤 裕保	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HN-E-2349	1	3 年前期	実習	必修	
<科目区分> 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
<教員免許法施行規則上の科目区分>					
<科目に含めることが必要な事項>					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☒ 体系的な知識・技能 ☒ 論理的思考力と創造力 ☐ 人間関係形成・社会形成能力 ☒ 職業観と職業的倫理観 ☐ 自己理解・自己管理能力 ☐ 諸課題の理解と課題対応能力 ☒ 統合的な学習経験 ☐ キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)					
授 業 の 内 容					
消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別に疾病の改善や回復を、より適切に効果的に促進するための栄養食事療法を実習する。 対象者を的確に把握し、疾患の特徴と栄養食事療法の特徴を結び付けて考えることができるように、治療食作成の技術を学習する。					
授 業 の 到 達 目 標					
治療食作成を通して、栄養・食事療法を理解する。					
アクティブ・ラーニング					
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回:ガイダンス、治療食献立作成について 第 2 回:消化器疾患:易消化食(献立作成)(実習) 第 3 回:消化器疾患:易消化食(調理・試食)(実習) 第 4 回:消化器疾患:急性肝炎・肝硬変(献立作成)(実習) 第 5 回:消化器疾患:肝硬変非代償期(試食)(実習) 第 6 回:代謝疾患:糖尿病(献立作成)(実習) 第 7 回:代謝疾患:糖尿病(調理・試食)(実習) 第 8 回:代謝疾患:高コレステロール血症・高トリグリセライド血症(献立作成)(実習) 第 9 回:代謝疾患:高コレステロール血症(調理・試食)(実習) 第 10 回:循環器疾患:高血圧症(献立作成)(実習) 第 11 回:循環器疾患:高血圧症(試食)(実習) 第 12 回:腎疾患:慢性腎臓病(献立作成)(実習) 第 13 回:腎疾患:慢性腎臓病(試食)(実習) 第 14 回:先天性代謝異常:フェニルケトン尿症(献立作成)(実習) 第 15 回:小児疾患:食物アレルギー(献立作成)(実習) 臨床栄養学 I との知識の連携を心がけること。					
成 績 評 価 方 法					
提出物(60%)平常点(40%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します)					
成 績 評 価 基 準					
治療食作成を通して、栄養・食事療法を理解できたか。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック					
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☒ その他(具体的に記述:提出物返却時にコメント記載) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☒ メール ☐ その他(具体的に記述：)					

3)小レポートに対するフィードバックについて

- ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

- ☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて)

- ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(管理栄養士)

・実務経験と授業内容との関連性

(病院勤務経験を活かし、各疾患別に疾病の改善や回復を、より適切に効果的に促進するための栄養食事療法を実習する。対象者を的確に把握し、疾患の特徴と栄養食事療法の特徴を結び付けて考えることができるように、治療食作成の技術について実習する。)

テキスト、参 考 図 書

「臨床栄養学実習書」医歯薬出版

「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病協会

「腎臓病食品交換表」医歯薬出版

その他(受講上の注意)

毎回、提出物を求める。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

生命科学 (Life Science)			担当教員	鳴瀬 碧、野村 卓正
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-D-2205	2	1 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 基礎分野				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞				
＜科目に含めることが必要な事項＞				
求める学習成果(教育目標)				
基礎研究および食品開発ができる能力				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
☒ 体系的な知識・技能 ☐ 論理的思考力と創造力 ☐ 人間関係形成・社会形成能力 ☒ 職業観と職業的倫理観 ☐ 自己理解・自己管理能力 ☒ 諸課題の理解と課題対応能力 ☐ 統合的な学習経験 ☐ キャリアプランニング能力				
資格・免許の要件				
(空白)				
授 業 の 内 容				
管理栄養士に必要な生命科学に関する知識を習得し、実際に医療チームの一員として行動する際に倫理的に対応できる能力を養う				
授 業 の 到 達 目 標				
・「生命とは何か」「ヒトはどのように進歩してきたのか」「死とは何か」、生命の基本単位、発生と分化等、生命の誕生から死まで生命活動の一連の流れについて説明することができる。 ・生命倫理の必要性を理解し、説明することができる。 ・生命科学と生命に関する諸問題について学び、医療チームの一員としての管理栄養士に必要な倫理観を養う。				
アクティブ・ラーニング				
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☒ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☒ その他(DVD 視聴)				
授業計画及び授業外の学修方法				
第 1 回:生命科学はどのように誕生したか(野村) 事前学習:教科書第 1 章(p.11-p.24)を読み、質問事項をまとめておくこと(1 時間) 事後学習:「生命とは何か」ノートにまとめておくこと(3 時間) 第 2 回:生命はどのように設計されているか①(野村) 事前学習:教科書第 2 章第 1～3 節(p.26-p.33)を読み、質問事項をまとめておくこと(1 時間) 事後学習:「細胞の構成」についてノートにまとめておくこと(3 時間) 第 3 回:生命はどのように設計されているか②／小試験①(野村) 事前学習:教科書第 2 章第 4 節(p.33-p.36)を読み、質問事項をまとめておくこと(1 時間) 事後学習:「遺伝物質の構造」についてノートにまとめておくこと(1 時間) 小試験①で解けなかった問題を中心に復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間) 第 4 回:生命はどのように設計されているか③(野村) 事前学習:教科書第 2 章第 5 節(p.36-p.40)を読み、質問事項をまとめておくこと(1 時間) 事後学習:「遺伝情報の発現」についてノートにまとめておくこと(3 時間) 第 5 回:ゲノム情報はどのように発現するのか①(野村) 事前学習:教科書第 3 章第 1～5 節(p.42-p.48)を読み、質問事項をまとめておくこと(1 時間) 事後学習:「遺伝子の構造」についてノートにまとめておくこと(3 時間) 第 6 回:ゲノム情報はどのように発現するのか②／小試験②(野村) 事前学習:教科書第 3 章第 6 節(p.49-p.54)を読み、質問事項をまとめておくこと(1 時間) 事後学習:小試験②で解けなかった問題を中心に復習し、ノートにまとめておくこと(3 時間) 第 7 回:複雑な体はどのようにしてつくられるか①(野村) 事前学習:教科書第 4 章第 7～8 節(p.64-p.66)を読み、質問事項をまとめておくこと(1 時間) 事後学習:「発生と分化」についてノートにまとめておくこと(3 時間) 第 8 回:複雑な体はどのようにしてつくられるか②／小試験③(野村) 事前学習:教科書第 4 章第 1～6 節(p.56-p.63)を読み、質問事項をまとめておくこと(1 時間) 事後学習:小試験③で解けなかった問題を中心に復習し、ノートにまとめておくこと(3 時間) 第 9 回:生命のしくみと再生医療①(鳴瀬)(DVD 視聴) 事前学習:第 7 回・第 8 回の講義テキスト・ノート・資料等を参考に、胚性幹細胞、体性幹細胞、iPS 細胞の違いと再生医療についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習:視聴した DVD の内容について、胚性幹細胞、体性幹細胞、iPS 細胞と再生医療に関するレポートを作成し、				

提出すること(3 時間)

第 10 回: 生命のしくみと再生医療②(鳴瀬)(PBL・グループ討論・発表)

事前学習: 視聴した DVD の内容について作成したレポートを基に科学技術の進歩・再生医療・生命倫理について自分の考えをまとめておくこと(1 時間)

事後学習: 授業中のグループ討論・発表を基に「科学技術の進歩がもたらす未来と生命倫理の重要性」についてレポートを作成し提出すること(3 時間)

第 11 回: 科学技術の進歩と生命倫理(再生医療と生命倫理)(鳴瀬)

事前学習: テキスト第 10 章に掲載の Column および第 11 章を読み、前回の授業で学んだ内容と合わせて最新の科学技術、臓器移植や生殖補助医療について自分の考えをまとめておくこと(2 時間)

事後学習: 授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)

第 12 回: 健康とは何か①(脳と健康)(鳴瀬)(講義と実技: 認知症予防のためのエクササイズの体験)

事前学習: テキスト第 5 章を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習: 授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)

第 13 回: 健康とは何か②(食と健康)(鳴瀬)

事前学習: テキスト第 7 章を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習: 授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)

第 14 回: 健康とは何か③(生体防御機能)(鳴瀬)

事前学習: テキスト第 8 章を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習: 授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)

第 15 回: がんとはどのような現象か(鳴瀬)

事前学習: テキスト第 6 章を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間)

事後学習: 授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)

第 16 回: 定期試験(鳴瀬・野村)

新聞・ニュース等で報じられる生命科学や倫理に関する諸問題について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、生命科学技術の発展に対する自分の考えと医療チームの一員としての倫理観を構築すること。

成績評価方法

定期試験(70%)、課題レポート(20%)、平常点(10%)

(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する)

成績評価基準

・「生命とは何か」「ヒトはどのように進歩してきたのか」「死とは何か」、生命の基本単位、発生と分化等、生命の誕生から死まで生命活動の一連の流れについて説明することができる。

・臓器移植、再生医療技術の発展等、医学研究にまつわる倫理的な諸問題について正しく理解できているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(健康運動指導士)

・実務経験と授業内容との関連性

(脳の構造と機能および認知症の原因と予防について解説する回では、健康運動指導士としての技能を活かし、実践的なエクササイズを学生に体験させるなど、アクティブラーニングを取り入れている。)

テキスト、参考図書

東京大学生命科学教科書編集委員会編『現代生命科学 第2版』羊土社 2019 年

その他(受講上の注意)

・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。

・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。

・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

運動生理学 (Exercise Physiology)			担当教員	鳴瀬 碧
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-B-2218	2	2 年前期	講義	必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞				
＜科目に含めることが必要な事項＞				
求める学習成果(教育目標)				
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力				
資格・免許の要件				
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)				
授 業 の 内 容				
運動はスポーツ選手のみならず一般の人々の体力づくりや健康の維持・増進に欠くことができない。しかし、運動の効果は運動の種類、強度、時間、頻度などによって異なるため運動についての正しい知識が求められる。筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて学ぶ。				
授 業 の 到 達 目 標				
筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できる。				
アクティブ・ラーニング				
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)				
授業計画及び授業外の学修方法				
第 1 回：健康と運動 事前学習：「健康の保持・増進」と運動の関係について、テキスト巻頭「はじめに」p.iii - iv、p.135-137、p.149-150 を読み、また新聞・ニュース・書籍等で情報を収集するなどして、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、「健康の保持・増進」と運動の関係についてノートにまとめること(2 時間)				
第 2 回：安静時と運動時のエネルギー代謝 事前学習：テキスト第 1 章を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)				
第 3 回：運動と身体組成 事前学習：テキスト第 2 章を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)				
第 4 回：運動と呼吸・循環器系の機能① 事前学習：テキスト第 3 章 p.29-33、p.34-35 を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)				
第 5 回：運動と呼吸・循環器系の機能② 事前学習：テキスト第 3 章 p.33-34、p.35-37 を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)				
第 6 回：運動と骨格筋の機能 事前学習：テキスト第 4 章を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)				
第 7 回：運動と神経系の機能 事前学習：テキスト第 4 章 p.51-52 を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)				
第 8 回：運動と中間代謝・内分泌系の機能① 事前学習：テキスト第 5 章 p.57-60 を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)				
第 9 回：運動と中間代謝・内分泌系の機能② 事前学習：テキスト第 5 章 p.60-63 を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間)				
第 10 回：運動と中間代謝・内分泌系の機能③ 事前学習：テキスト第 5 章 p.63-69 を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間)				

事後学習:授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間) 第 11 回:環境と運動・栄養① 事前学習:テキスト第 6 章 p71-78 を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間) 第 12 回:環境と運動・栄養② 事前学習:テキスト第 6 章 p78-83 を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間) 第 13 回:体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅰ(糖質・たんぱく質・脂質) 事前学習:テキスト第 7 章を読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間) 第 14 回:体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅱ①(ビタミン・ミネラル・その他) 事前学習:テキスト第 8 章 p.95-104 読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間) 第 15 回:体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅱ②(運動時の食事内容と摂取のタイミング) 事前学習:テキスト第 8 章 p.104-109 読み、質問事項をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2 時間) 第 16 回:定期試験 予習では、各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、日常生活におけるスポーツや運動の効果について理解や関心を深める。
成績評価方法
定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成績評価基準
筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できている。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述: 質問に対するフィードバックについて) ■ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ■メール ☐ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (健康運動指導士・ピラティストトレーナー・薬剤師) ・実務経験と授業内容との関連性 (スポーツ・健康増進関連施設での実務経験、健康運動指導士・ピラティストトレーナー(個人事業主)としての実務経験を活かし、身体の構造と機能および運動時の生理機能の変化、健康増進のための運動、生活習慣病予防・改善のための運動と栄養、薬物療法中の運動のリスク等について解説する。また、スポーツと栄養についての講義では、スポーツファーマシストとして、アスリートのサポートを行ってきた経験も交えて授業を展開する。)
テキスト、参考図書
樋口満監修・湊久美子／寺田新編集、「-栄養・スポーツ系の-運動生理学」、南江堂
その他(受講上の注意)
講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるようにすること。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

公衆衛生学 (Public Health)			担当教員	鳴瀬 碧
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-B-2206	2	2 年後期	講義	必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞				
＜科目に含めることが必要な事項＞				
求める学習成果(教育目標)				
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力				
資格・免許の要件				
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)				
授 業 の 内 容				
集団的に人を捉えた予防医学が公衆衛生学であり、人々の健康状態の現状について学び、健康保持・増進を目的とした法律および施策について理解を深める。				
授 業 の 到 達 目 標				
・公衆衛生の概念とその重要性について理解し、説明することができる。 ・人間を集団として捉え、人々の健康と環境および生活習慣との関わり、健康評価の方法等を理解し、説明することができる。 ・集団としての健康の保持・増進に関する法律および施策について理解し、説明することができる。				
アクティブ・ラーニング				
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)				
授業計画及び授業外の学修方法				
第 1 回:社会と健康(前編) 事前学習:授業前にテキストの第 1 章 p1～12 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 1 章末の練習問題をすること(2 時間) 第 2 回:社会と健康(後編) 事前学習:授業前にテキストの第 1 章 p12～25 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 1 章末の練習問題をすること(2 時間) 第 3 回:環境と健康①(生態系と人々の生活) 事前学習:授業前にテキストの第 2 章 p27～30 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 2 章末の練習問題をすること(2 時間) 第 4 回:環境と健康②(環境汚染と健康) 事前学習:授業前にテキストの第 2 章 p30～36、p40～43 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 2 章末の練習問題をすること(2 時間) 第 5 回:環境と健康③(環境衛生) 事前学習:授業前にテキストの第 2 章 p36～40 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 2 章末の練習問題をすること(2 時間) 第 6 回:環境と健康④(上水道と下水道) 事前学習:授業前にテキストの第 2 章 p40～44 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 6 章の指定箇所も読んでおくこと(2 時間) 第 7 回:環境と健康⑤(廃棄物処理、放射線) 事前学習:授業前にテキストの第 2 章 p44～47 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 7 章末の練習問題をすること(2 時間) 第 8 回:保健・医療・福祉の制度① 事前学習:授業前にテキストの第 7 章 p203～208 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 7 章末の練習問題をすること(2 時間) 第 9 回:保健・医療・福祉の制度② 事前学習:授業前にテキストの第 7 章 p208～212 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第 7 章末の練習問題をすること(2 時間) 第 10 回:保健・医療・福祉の制度③ 事前学習:授業前にテキストの第 7 章 p212～220 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間)				

事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第7章末の練習問題をする(2時間) 第11回:地域保健 事前学習:授業前にテキストの第8章 p223～230を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第8章末の練習問題をする(2時間) 第12回:成人保健 事前学習:授業前にテキストの第10章 p245～p253を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第5章の指定箇所も読んでおく(2時間) 第13回:高齢者保健・介護 事前学習:授業前にテキストの第11章 p255～263を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第11章末の練習問題をする(2時間) 第14回:母子保健 事前学習:授業前にテキストの第9章 p233～241を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第9章末の練習問題をする(2時間) 第15回:学校保健 事前学習:授業前にテキストの第13章 p279～289を読み、質問項目をまとめておく(2時間) 事後学習:授業で学習した内容を復習し、テキスト第6章の指定箇所も読んでおく(2時間) 第16回:定期試験 新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。
成績評価方法
定期試験(70%)、小テスト(20%)、平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断する)
成績評価基準
・公衆衛生の概念について理解できているか。 ・環境と健康について理解できているか。 ・保健統計について理解できているか。 ・健康増進のための取組みや疾病の予防対策について理解できているか。 ・保険・医療・福祉の制度や取組みについて理解できているか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ■ その他(具体的に記述: Teams) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述: 小テストに対するフィードバックについて) ■ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ■ その他(具体的に記述: Teams)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (薬剤師) ・実務経験と授業内容との関連性 (薬剤師として医療提供施設での実務経験を活かし、国が展開する国民の健康づくりに関する施策、医療保険をはじめとする社会保障の仕組み、老人保健、母子保健、地域保健、産業保健、国際保健等、保健・医療・福祉の制度について解説する。)
テキスト、参考図書
健康・栄養科学シリーズ『社会・環境と健康(改訂第4版)』 編集／田中平三・徳留信寛他 南江堂
その他(受講上の注意)
・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

解剖生理学 (Anatomical Physiology)			担当教員	岸 慎治
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-A-2110	2	1 年前期	講義	必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞				
＜科目に含めることが必要な事項＞				
求める学習成果(教育目標)				
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
☒ 体系的な知識・技能 ☐ 論理的思考力と創造力 ☐ 人間関係形成・社会形成能力 ☐ 職業観と職業的倫理観 ☐ 自己理解・自己管理能力 ☐ 諸課題の理解と課題対応能力 ☒ 統合的な学習経験 ☐ キャリアプランニング能力				
資格・免許の要件				
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)				
授 業 の 内 容				
正常な人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織、器官、器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解できるよう教授する。個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も講義する。				
授 業 の 到 達 目 標				
ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。				
アクティブ・ラーニング				
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)				
授業計画及び授業外の学修方法				
第 1 回： 細胞 事前学習：授業前にテキスト(解剖生理学 第 1 章 1-5)を読み質問事項をまとめておく事(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事(2 時間) 第 2 回： 組織と器官 事前学習：授業前にテキスト(解剖生理学第 1 章 6.7)を読み質問事項をまとめておく事(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2 時間) 第 3 回： 内部環境の恒常性(ディスカッション) 事前学習：授業前に配布された資料の空所を確認し、質問事項をまとめておく事(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。テキストも参照する事。(2 時間) 第 4 回： 消化器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2 時間) 第 5 回： 循環器系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2 時間) 第 6 回： 腎・尿路系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2 時間) 第 7 回： 内分泌器官と分泌ホルモン 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2 時間) 第 8 回： 神経系の構造と機能 事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2 時間)				

事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間)
第9回: 感覚器系(聴覚、味覚、嗅覚、触覚)
事前学習:授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間)
事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第10回: 呼吸器系の構造と機能
事前学習:授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間)
事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間)
第11回: 運動器系の構造と機能
事前学習:授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間)
事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間)
第12回: 生殖器系の構造と機能
事前学習:授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間)
事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間)
第13回: 血液・造血器・リンパ系の構造と機能
事前学習:授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間)
事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間)
第14回: 免疫と生体防御
事前学習:授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事(2時間)
事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。(2時間)
第15回: まとめ
事前学習:授業前に第1回から第14回までに配布された資料、問題を見直し、不明な点をまとめておく事(2時間)
事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第16回: 定期試験
成績評価方法
定期試験(70%)、平常点(30%) 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 (平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します)
成績評価基準
ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (医師) ・実務経験と授業内容との関連性 (病院での実務経験を活かし、人体の構造と機能がどのように密接に関連しているのかを理解できるように教授する。また正常な個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も実際の傷病者での回復経験等もふまえて解説する。)
テキスト、参考図書
サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学 加藤昌彦 第一出版 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版 羊土社

講義時にプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

健康管理概論 (Preventive Medicine and Health Promotion)			担当教員	岸 慎治
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-B-2208	2	2 年前期	講義	必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞				
＜科目に含めることが必要な事項＞				
求める学習成果(教育目標)				
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力				
資格・免許の要件				
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)				
授 業 の 内 容				
健康の概念とその歴史的 개념を理解する。個人、集団(地域、学校、職場など)を対象として、健康の維持・増進、疾病の予防、回復を目的として行う健康管理について、健康の概念と歴史、疫学、世界、我が国の人口統計、国民の健康づくり、生活習慣病の現状と予防、地域保健、ライフステージ別の保健、健康管理、学校・職場での健康管理などについて教授する。				
授 業 の 到 達 目 標				
健康の概念とその歴史的 concept および個人、集団(市町村、学校、職場など)の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。				
アクティブ・ラーニング				
☐ 課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☒ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☐ 実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)				
授業計画及び授業外の学修方法				
第 1 回： 健康概念、公衆衛生とその歴史(グループワーク、ディスカッション) 事前学習：授業前にテキストの第 1 章 A.B.D を読み「健康」の定義、例、質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 2 回： 疫学 1(疫学の概念、疫学指標) 事前学習：授業前にテキストの第 4 章 A.B.C.D を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 3 回： 疫学 2(疫学的研究法) 事前学習：授業前にテキストの第 4 章 A.B.C.D を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 4 回： スクリーニング、EBM、疫学研究と倫理 事前学習：授業前にテキストの第 4 章 E.F.H を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 5 回： 保険統計 1(人口統計、人口指標、人口特性) 事前学習：授業前にテキストの第 3 章 A.B.C を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 6 回： 保健統計 2(生命表、平均寿命、健康寿命、疾病統計) 事前学習：授業前にテキストの第 3 章 D.E.F を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 7 回： 健康づくり(健康の生物社会心理学モデル、生活習慣病・NCD の概念、健康日本 21 グループワーク) 事前学習：授業前にテキストの第 5 章 A を読み、それぞれについて説明できる様にまとめておく事。(2 時間) 事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 8 回： 生活習慣と健康 1(身体活動・運動、喫煙)				

事前学習:授業前にテキストの第 5 章 C.D.を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 9 回: 生活習慣と健康2(飲酒・睡眠・休養・ストレス、歯科保健) 事前学習:授業前にテキストの第 5 章 E.F.Gを読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、配布された問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 10 回: 主要疾患の疫学と予防1(生活習慣病) 事前学習:授業前にテキストの第 6 章 A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 11 回: 主要疾患の疫学と予防 2(感染症、精神疾患、自殺、不慮の事故、虐待暴力) 事前学習:授業前にテキストの第 6 章 E.F.G.Hを読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 12 回: 社会保障(医療制度、福祉制度、地域の保健予防システム) 事前学習:授業前にテキストの第 7 章、第 8 章を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 13 回: 高齢者・成人の健康管理、母子の健康管理 事前学習:授業前にテキストの第 10 章、第 11 章を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 14 回: 学校の健康管理 事前学習:授業前にテキストの第 13 章を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 15 回: 職場の健康管理 事前学習:授業前にテキストの第 12 章を読み質問事項をまとめておく事。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2 時間) 第 16 回: 定期試験
成績評価方法
定期試験(70%)、平常点(30%) 割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。 (平常点は、授業への参加状況・受講態度・小試験の成績等を総合して判断します)
成績評価基準
健康の概念とその歴史的 개념および個人、集団(市町村、学校、職場など)の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ ■仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (医師) ・実務経験と授業内容との関連性 (病院での実務経験を活かし、健康の概念とその歴史的 概念および個人、集団の健康状態を把握するための健康指標、健康管理などがなぜ必要なのかを、実際にある問題について具体例を挙げながら、実践の技術、背景となる法律などについて説明する。)

テキスト、参 考 図 書

『社会・環境と健康』(第 5 版)南江堂 2017 年、
講義時にプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

公衆栄養学Ⅰ(地域栄養活動) (Public Health NutritionⅠ (Community Involvement))			担当教員	阿部 喜代子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2252	2	2 年後期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)					
授 業 の 内 容					
地域集団における健康・QOLの向上や疾病の発症と重症化予防のための食行動の変容を図る方法を学修する。					
授 業 の 到 達 目 標					
地域集団における食生活上に存在する課題を分析して捉え、食行動の変容を図るための公衆栄養マネジメントとして、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントの知識と技術を修得する。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述:)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回: ガイダンス - 授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅰ(地域栄養活動)についての説明 - 事前学習: 授業前に日本における生活習慣における健康や栄養に関する問題点についてまとめておくこと。(3 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(1 時間)					
第 2 回: 公衆栄養学の概念 事前学習: 教科書の第 1 章の公衆栄養学の概念の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					
第 3 回: 公衆栄養学の歴史 事前学習: 教科書の第 1 章の公衆栄養活動の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					
第 4 回: 公衆栄養活動(管理栄養士の役割) 事前学習: 前回配布した資料と教科書の第 1 章の公衆栄養活動の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					
第 5 回: 栄養関係法令①(栄養士法、健康増進法) 事前学習: 教科書の 3 章のわが国の公衆栄養活動と関連法規の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					
第 6 回: 栄養関係法令②(地域保健法、食育基本法) 事前学習: 前回配布した資料と教科書の巻末の栄養関連法規の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					
第 7 回: 国民健康・栄養調査(目的・概要) 事前学習: 教科書の 3 章の国民健康・栄養調査の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					
第 8 回: わが国の健康・栄養問題の現状と課題 事前学習: 前回配布した資料と教科書の 2 章の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					
第 9 回: 健康づくりのための指針、ツール(食生活指針、食事バランスガイド) 事前学習: 教科書の 3 章の実施に関する指針・ツールの要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					
第 10 回: わが国の栄養施策(国や地域における健康増進施策) 健康日本 21 事前学習: 教科書の 3 章の健康日本 21 の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)					

第 11 回：わが国の栄養施策(国や地域における健康増進施策) 特定健康診査・特定保健指導

事前学習:教科書の 3 章の特定健康診査・特定保健指導の要点をまとめておくこと。(2 時間)

事後学習:授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)

第 12 回：公衆栄養マネジメント(概念、プロセス、アセスメント)

事前学習:教科書の 5 章の公衆栄養マネジメントの該当するところを調べまとめておくこと。(2 時間)

事後学習:授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)

第 13 回：公衆栄養マネジメント(プログラムの目標設定)

事前学習:教科書の 5 章の公衆栄養マネジメントのプログラムの目標設定の仕方の要点をまとめておくこと。(1 時間)

事後学習:授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(3 時間)

第 14 回：公衆栄養マネジメント(プログラムの計画・実施・評価 PDCA サイクル)

事前学習:教科書の 5 章の公衆栄養マネジメントの該当するところを調べ要点をまとめておくこと。(1 時間)

事後学習:授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(3 時間)

第 15 回：公衆栄養プログラムの展開(地域公衆栄養活動の事例)

事前学習:教科書の 6 章の公衆栄養プログラムの展開の仕方の要点をまとめておくこと。(2 時間)

事後学習:授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)

第 16 回：定期試験

予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。課題の取り組みについては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

定期試験 60%、課題レポート 20%、授業への取り組み態度等 20%の総合評価(100%)

成績評価基準

地域集団における食習慣や生活習慣に存在する課題を分析して捉えることができる。
公衆栄養マネジメントとして、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントの知識と技術を修得できる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

■ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(管理栄養士)

・実務経験と授業内容との関連性

(病院や老健施設等の実務経験を活かし、日本の生活習慣病等と健康や栄養に関する現状と課題、栄養関連の保健・医療・福祉・介護の制度と法規、地域における母子・成人・高齢者の集団及び個別の栄養評価と改善のための方策や栄養指導などの公衆栄養活動について解説し実例を示すなどで理解が深まる内容とする。)

テキスト、参考図書

テキスト:

1.健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学(改訂第 6 版) 南江堂 2018 年

2.「日本人の食事摂取基準(2020 年版)」 第一出版 2020 年

参考図書:

3.カレント 公衆栄養学(第 3 版) 建帛社 2018 年

4.サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学(第 7 版) 第一出版 2018 年

5.2019 年版 栄養士・管理栄養士必携 第一出版 2019 年

その他(受講上の注意)

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業 1 回目のガイダンスにて説明する。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

公衆栄養学Ⅱ(栄養疫学) (Public Health Nutrition II (Nutritional Epidemiology))			担当教員	阿部 喜代子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-B-2353	2	3 年後期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)					
授 業 の 内 容					
日本における健康や栄養摂取状況の実態や国内や海外で行われている栄養疫学調査についての学術文献等で紹介し、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法の理論について学ぶ。					
授 業 の 到 達 目 標					
保健・医療・福祉・介護システムにおいて、地域住民の栄養摂取状況における疾病の発症のハイリスク集団の特定とともに集団または個々の対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができるようにするために必要な理論と手法を修得する。集団または個々の対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法を学び、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を修得する。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回： ガイダンス ―授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅱ(栄養疫学)の概要についての説明― 事前学習:授業前に前期で履修した公衆栄養学実習で学んだことを復習しておくこと。(1 時間) 事後学習:授業で配布した資料の内容について、整理してまとめること。(3 時間)					
第 2 回： 栄養関連の法規と調査統計 事前学習:授業前に教科書の第 3 章と巻末の栄養関連法規の要点をまとめること。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料の内容について、整理してまとめること。(2 時間)					
第 3 回： 国民健康・栄養調査 概要と調査法 事前学習:授業前に厚労省のサイトにある国民健康・栄養調査結果報告の調査概要の内容をまとめること。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料の内容について、整理してまとめること。(2 時間)					
第 4 回： 我が国の健康・栄養の推移と現状①(国民健康・栄養調査結果から) 事前学習:授業前に厚労省のサイトにある国民健康・栄養調査結果報告の結果概要の内容をまとめること。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料の内容について、整理してまとめること。(2 時間)					
第 5 回： 我が国の健康・栄養の推移と現状②(国民健康・栄養調査結果から) 事前学習:授業前に厚労省のサイトにある国民健康・栄養調査結果報告の内容をまとめること。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料の内容について、整理してまとめること。(2 時間)					
第 6 回： 我が国の健康・栄養の推移と現状③(県民健康・栄養調査結果から) 事前学習:授業前に福井県のサイトにある県民健康・栄養調査結果報告書の内容をまとめること。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料の内容について、整理してまとめること。(2 時間)					
第 7 回： 諸外国の健康と栄養の現状と課題 事前学習:教科書の第 2,3 章の関連するところを調べまとめること。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料の内容について、整理してまとめること。(2 時間)					
第 8 回： 栄養疫学の概要(役割と応用) 事前学習:教科書の第 4 章の栄養疫学の要点をまとめること。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料の内容について、整理してまとめること。(2 時間)					
第 9 回： 研究結果の競合的解釈 事前学習:前回配布した資料と教科書の第 4 章の栄養疫学の指標についてまとめること。(2 時間) 事後学習:授業で配布された資料の内容について、整理してまとめること。(2 時間)					

第 10 回：研究デザインの概要

事前学習：教科書の第 4 章の栄養疫学の方法の要点をまとめておくこと。(2 時間)

事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)

第 11 回：暴露情報としての食事摂取量(食物摂取の変動要因)

事前学習：教科書の第 4 章の栄養疫学の指標で該当するところを調べまとめておくこと。(2 時間)

事後学習：授業で配布されたプリントの内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)

第 12 回：食事調査法の概要①(24 時間思い出し法、秤量記録法<秤量法と目安法>)

事前学習：教科書の第 4 章の食事摂取量の測定方法の要点をまとめておくこと。(2 時間)

事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)

第 13 回：食事調査法の概要②(食物摂取頻度調査法)

事前学習：教科書の第 4 章の食事摂取量の測定方法と前回配布した資料で該当するところを調べまとめておくこと。(2 時間)

事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)

第 14 回：食事摂取量を反映する身体計測値・生化学的指標

事前学習：教科書の第 4 章の食事摂取量と評価方法の要点をまとめておくこと。(2 時間)

事後学習：授業で配布されたプリントの内容について、整理してまとめておくこと。(2 時間)

第 15 回：栄養疫学研究の文献紹介

事前学習：栄養関連について研究した文献を 1 つ検索して、その研究内容をまとめておくこと。(3 時間)

事後学習：授業で行った内容について、整理してまとめておくこと。(1 時間)

第 16 回：定期試験

公衆栄養学 I の講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。課題の取り組みについては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

定期試験 60%、課題レポート 20%、授業への取り組み態度等 20%の総合評価(100%)

成績評価基準

対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法の理論を理解している。

食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を理解している。

対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、疾病の発症のハイリスク集団の特定ができる。

対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述：)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述：)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述：)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング ■ メール

□ その他(具体的に記述：)

5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて)

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述：)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(管理栄養士)

・実務経験と授業内容との関連性

(病院や老健施設等の実務経験を活かし、栄養・食事と疾病発症や健康状態の日本及び海外での栄養疫学調査について知る事で視野を広げ、健康・栄養状態の評価については食事調査方法や身体計測や生化学検査値から習得し健診結果での課題抽出と保健指導や疾病のハイリスクへの栄養改善プログラムの作成等の能力が養われるように保健行政の現場での実際について解説していく。)

テキスト、参考図書

「健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学(改訂第 6 版)」 南江堂 2018 年

「日本人の食事摂取基準(2020 年版)」 第一出版 2020 年

その他(受講上の注意)

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業 1 回目のガイダンスにて説明する。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

公衆栄養学実習 (Public Health Nutrition Practicum)			担当教員	阿部 喜代子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2354	1	3 年前期	実習		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門分野					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)					
授 業 の 内 容					
公衆栄養学の講義内容で学修した知識を基礎にして、地域における効果的な公衆栄養学活動が推進できるように学内で模擬的な実習を行う。					
授 業 の 到 達 目 標					
地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集をどのように行うか、また得られた情報を実際にどのように処理し分析・解析していくかを修得する。さらに、実践で栄養摂取状況において疾病の発症のハイリスク集団に対しての適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価することや総合的にマネジメントを行うことができるように手法を修得する。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回： ガイダンス ～授業計画の詳細についての説明と公衆栄養学研究とは～ ＜講義＞ 第 2 回： 公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理①(データの取り扱い方) ＜実習＞ 第 3 回： 公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理②(データ整理と集計の仕方) ＜実習＞ 第 4 回： 公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理③(作表の仕方) ＜実習＞ 第 5 回： 公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理④(データ解析：度数分布) ＜実習＞ 第 6 回： 公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理⑤(データ解析：クロス集計)＜実習＞ 第 7 回： 公衆栄養学における研究の情報処理 データ処理⑥データ解析：相関関係)＜実習＞ 第 8 回： 公衆栄養学関連の文献検索法と資料検索 ＜実習＞ 第 9 回： 生活活動時間調査によるエネルギー消費量測定 ＜実習＞ 第 10 回： 質問票の作成法(テーマの設定、質問票の構成) ＜実習＞ 第 11 回： 栄養摂取状況の実態把握 栄養調査法① 食品の目安量(ポーションサイズ)、摂取量の推定 ＜実習＞ 第 12 回： 栄養摂取状況の実態把握 栄養調査法② 料理の栄養量の推定 ＜実習＞ 第 13 回： 栄養摂取状況の実態把握 栄養調査法③ 24 時間思い出し法について ＜実習＞ 第 14 回： 栄養摂取状況の実態把握 栄養調査結果の集計 ＜実習＞ 第 15 回： 栄養摂取状況の評価 食事摂取基準の活用法 ＜実習＞					
公衆栄養学Ⅰの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通していき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、実習課題の取り組みにおいては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。					
成 績 評 価 方 法					
課題レポート 70%、実習への取り組み態度等 30%の総合評価(100%)					
成 績 評 価 基 準					
地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集ができ、さらに得られた情報を適切に処理し分析・解析できること。 栄養摂取状況を評価し、疾病の発症のリスクの対象者や集団を見出し、それに対しての適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価する総合的にマネジメントができること。					

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☒ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴
 (管理栄養士)

・実務経験と授業内容との関連性
 (管理栄養士として臨床現場や健診センター及び保健行政の実務経験を活かし、地域や職域等の集団の実態把握や食生活状況の把握の手段や方法と情報処理による分析について学び、乳幼児から高齢者までの公衆栄養活動が推進できるよう栄養関連の法規と栄養調査法について人間栄養学の視点で解説し实际的で具体的な実習を通じた学びによって理解が深まるように努める。)

テキスト、参考図書

「栄養科学シリーズ NEXT 公衆栄養学実習」 講談社サイエンティフィク 2011 年
 「健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学(改訂第 6 版)」 南江堂 2018 年
 「日本人の食事摂取基準(2020 年版)」 第一出版 2020 年

その他(受講上の注意)

栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。私語など他人に迷惑をかける行為をする者、指示に従わない者に対しては、単位を認定しないこともある。なお実習内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。授業の計画の予定は、変更されることもある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目のガイダンスにて説明する。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

調理学 (Cookery Science)			担当教員	佐藤 真実
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-A-2128	2	1 年前期	講義	必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞				
＜科目に含めることが必要な事項＞				
求める学習成果(教育目標)				
栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力				
資格・免許の要件				
管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修) 食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)				
授 業 の 内 容				
調理中の変化を科学的に解明し、健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理の理論を学ぶ。				
授 業 の 到 達 目 標				
歴史や文化によって培われた食文化、食生活、健康、食料、環境問題といった人間と食べ物の関わりについて理解する。調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について理解する。				
アクティブ・ラーニング				
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)				
授業計画及び授業外の学修方法				
第 1 回：人間と食品(食文化) 事前学習：授業前にテキストの第 1 章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 2 回：人間と食品(環境)、食事設計の基礎 事前学習：授業前にテキストの第 1 章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 3 回：食事設計の基礎 事前学習：授業前にテキストの第 2 章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 4 回：調理操作(加熱調理操作、非加熱調理操作、調味操作)、設備・器具・エネルギー源 事前学習：授業前にテキストの第 3 章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 5 回：食品の特徴に応じた調理の特性(食品成分) 事前学習：授業前にテキストの第 3 章 6.1 を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 6 回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品 1) 事前学習：授業前にテキストの第 3 章 6.2 を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 7 回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品 2) 事前学習：授業前にテキストの第 3 章 6.2 を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 8 回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品 3) 事前学習：授業前にテキストの第 3 章 6.2 を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 9 回：食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品 1) 事前学習：授業前にテキストの第 3 章 6.3 を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間) 第 10 回：食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品 2) 事前学習：授業前にテキストの第 3 章 6.3 を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2 時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間)				

第 11 回:食品の特徴に応じた調理の特性(動物性食品3)

事前学習:授業前にテキストの第 3 章 6.3 を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間)

第 12 回:食品の特徴に応じた調理の特性(抽出食品素材・その他)

事前学習:授業前にテキストの第 3 章 6.4 を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間)

第 13 回:調理操作による食品組織・物性と栄養成分の変化

事前学習:授業前にテキストの第 4 章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2 時間)

第 14 回:献立作成1(献立作成条件と手順)

事前学習:授業前にテキストの第 5 章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:授業で課された課題について、図書館等で調べておくこと(2 時間)

第 15 回:献立作成 2(供食、食卓構成、食事環境)

事前学習:前回の授業で課された課題について、資料を収集しておくこと(2 時間)

事後学習:授業で課された課題について、完成させて提出をする(2 時間)

第 16 回:定期試験

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、予習ノートを作成すること。

復習として、講義の当該部分の配布資料などを見直して、ノート整理を行うこと。

成績評価方法

定期試験(60%) 予習ノートの状況・小テスト・課題(30%) 平常点(10%)

(予習ノートの状況・小テスト・課題は、提出の有無と内容について、平常点は、授業への参加状況(出欠)で判断します。)

成績評価基準

調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について説明することができる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング ■ メール

□ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング ■ メール

■ その他(具体的に記述:ノートは採点し、返却します)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(管理栄養士)

・実務経験と授業内容との関連性

(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、食事設計に必要な条件や具体的な調理科学理論について講義する。)

テキスト、参考図書

テキスト:西堀すき江編著「マスター調理学」(第 3 版) 建帛社

参考図書:藤沢和恵 他「現代調理学」医歯薬出版

浏览倫子編著「調理学」朝倉書店

山崎清子 他「調理と理論」同文書院

その他(受講上の注意)

出席状況、授業への取り組み態度(小テスト含む)を重視する。必ず予習・復習を含むノート整理を行う。授業の計画予定は変更されることがある。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

調理学実習 (Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤 真実
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HN-E-2129	1	1 年前期	実習	必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞				
＜科目に含めることが必要な事項＞				
求める学習成果(教育目標)				
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力				
資格・免許の要件				
管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修)				
授 業 の 内 容				
健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る基礎技術を習得する。				
授 業 の 到 達 目 標				
調理学の理論に基づいて、食品の性質と調理操作との関係を理解する。 安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作る基礎的な調理技術を身につける。 適切な食品の選択と組み合わせによる献立作成ができる。				
アクティブ・ラーニング				
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)				
授業計画及び授業外の学修方法				
第 1 回： 調理の意義と目的 および 計量方法や器具の使い方 第 2 回： 日本料理 (炊飯、だし、間接焼き、和える、卵の調理)(実習) 第 3 回： 日本料理 (変わり飯、煮る、寒天の調理)(実習) 第 4 回： 日本料理 (もち米、蒸す、でんぷんの調理)(実習) 第 5 回： 日本料理 (すし、小麦粉の調理)(実習) 第 6 回： 日本料理 (麺の扱い方、揚げ物)(実習) 第 7 回： 中国料理 (湯菜・拌菜・蒸菜)(実習) 第 8 回： 中国料理 (点心・揚げ菜)(実習) 第 9 回： 中国料理 (点心・炸菜)(実習) 第 10 回： 中国料理 (点心・炒菜)(実習) 第 11 回： 中国料理 (点心)(実習) 第 12 回： 西洋料理 (肉の調理、いもの調理、ゼラチンの調理)(実習) 第 13 回： 西洋料理 (ルー、揚げる、砂糖の調理)(実習) 第 14 回： 西洋料理 (魚の調理、オープン加熱)(実習) 第 15 回： 西洋料理 (パンの調理、果物の調理、嗜好飲料)(実習) 第 16 回： 定期試験 予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。				
成 績 評 価 方 法				
定期試験(40%) 実習ノート(40%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。さらに実技試験の結果も含みます)				
成 績 評 価 基 準				
安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作るための基礎的な調理技術を習得できている。 調理学の理論に基づいて、適切な食品の選択、組み合わせによる献立作成および調理、演出(盛り付け)ができる。				

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☒ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☒ メール
☒ その他(具体的に記述: ノート等は採点し、返却する)
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング
☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

- ・経歴
(管理栄養士)
- ・実務経験と授業内容との関連性
(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、実際の食事設計に必要な条件を設定しながら、調理技術の基本について実習する。)

テキスト、参考図書

テキスト: 西堀すき江編著 『食育に役立つ調理学実習』
『日本食品標準成分表 2020 年版(七訂)』
その他、プリントを配布する。
参考図書: 谷洋子他 『わかりやすい調理』 みらい 1998

その他(受講上の注意)

衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習する際には、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリやマニキュアは厳禁とする。実習に使用する食材費用は別途集金する。欠席した場合は必ず補講(実習)を受講する。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

応用調理学実習 (Applied Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤 真実	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HN-E-2130	1	1 年後期	実習		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部健康栄養学科専門科目 専門基礎分野					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修)					
授 業 の 内 容					
健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る応用技術を習得する。					
授 業 の 到 達 目 標					
より高度かつ最新の調理器具の使い方や調理技術を身につける。 郷土料理、行事食、対象者別の供応食について自ら計画し、適応調理を実施できる。 フルコースのテーブルセッティングからサービスの方法について学ぶ。					
アクティブ・ラーニング					
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ■実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回： 季節の献立(秋)(実習) 第 2 回： 諸外国の料理(インド・ロシア・ベトナム他) (実習) 第 3 回： 諸外国の料理(スペイン・イタリア・韓国他) (実習) 第 4 回： 年中行事と食卓の演出 (実習、グループワーク、発表) 第 5 回： 福井県の郷土料理 (実習) 第 6 回： フルコース(前菜・スープ・魚・肉・サラダ・菓子) (実習) 第 7 回： フルコース(食卓作法) (実習) 第 8 回： 対象者別の調理 (実習、グループワーク、発表) 第 9 回： 新しい調理法 (実習) 第 10 回： 包丁とぎ (実習) 第 11 回： 行事食(クリスマス料理)(実習) 第 12 回： 行事食(正月料理)(実習) 第 13 回： 季節の献立(冬)(実習) 第 14 回： 材料・テーマ別の調理 (実習、グループワーク、発表) 第 15 回： 包丁の使い方 (実習) 第 16 回： 定期試験 予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。 自主献立のときは、グループのメンバーとともに料理の由来や調理法などを調べ、献立を作成すること。					
成 績 評 価 方 法					
定期試験(30%) 実技試験(20%) 平常点(20%) 実習ノート(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、自主献立レポートの内容、提出状況等を総合して判断します。)					
成 績 評 価 基 準					
高度かつ最新の調理器具や調理技術、テーブルセッティングやマナーなどの知識が修得できている。 郷土料理を味わい、由来や調理法などについて説明することができる。 行事食、供応食などについて自ら献立を作成し、適応調理を実施することができる。					

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☒ メール
☐ その他(具体的に記述: _____)
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☒ メール
☒ その他(具体的に記述: ノートは採点し、返却します)
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述: _____)
- 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述: _____)
- 5) その他(自由記述: _____ に対するフィードバックについて)
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述: _____)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

- ・経歴
(管理栄養士)
- ・実務経験と授業内容との関連性
(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、実際の食事設計に必要な条件を設定しながら、献立作成や環境設定を学ぶとともに高度な調理技術について実習する。)

テキスト、参考図書

テキスト: 西堀すき江編著『食育に役立つ調理学実習』建帛社
『日本食品標準成分表 2015 年版(七訂)』
その他、プリントを配布する。
参考図書: 谷洋子他『わかりやすい調理』みらい

その他(受講上の注意)

衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習室では、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリやマニキュアは厳禁とする。
実習費は別途に集金する。
授業への出席状況、実習態度、ノートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講(実習)を受講する。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	鈴木 智子、伊禮 三之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-A-2100	2	1 年前期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教育の基礎的理解に関する科目					
＜科目に含めることが必要な事項＞ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の基礎理論の理解					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)					
授 業 の 内 容					
大学における学び方を含め、教師教育の観点から自己を位置づけ、専門職としての教師に向けての基礎を培うことを目的とする。教職の意義及び教員の役割や職務内容等について、制度的、実態的側面から解説する講義を中心とする。					
授 業 の 到 達 目 標					
(鈴木智子) 1.幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できる。 2.現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像についての考えを明確化する。 3.自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化する。					
(伊禮三之) 1.小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解する。 2.社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考える。 3.小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第 1 回:ガイダンス 各自の幼児教育観と幼児教育者像を確認する(グループワーク)(鈴木智子) 事前学習:授業前に各自の幼児教育観、幼児教育者像についての意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:授業のグループワークでの他の学生の意見、授業内容を踏まえて、各自の幼児教育観、幼児教育者像についてレポートにまとめておくこと。(2 時間)					
第 2 回:幼児教育者の専門性(鈴木智子) 事前学習:幼稚園教諭と小学校教諭の違いについて自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、幼稚園教諭の専門性について、レポートにまとめておくこと。(2 時間)					
第 3 回:幼稚園教員の役割と職務(鈴木智子) 事前学習:授業前に幼稚園教育要領解説序章第2節を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べ、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)					
第 4 回:幼稚園教諭免許取得と専門性の向上(鈴木智子) 事前学習:幼稚園教諭免許状について事前に調べ、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、専門性の向上の方法について、レポートにまとめておくこと。(2 時間)					
第 5 回:子育て支援と幼児教育センターとしての役割(鈴木智子) 事前学習:授業前に幼稚園教育要領解説第1章総説第 7 節 2 を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:子育て支援を行うために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2 時間)					
第 6 回:幼稚園教諭の協働性(鈴木智子) 事前学習:授業前に幼稚園教育要領解説第1章総説第 4 節 3 を読み、質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:幼稚園教諭の協働性を高めるために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2 時間)					
第 7 回:まとめ 幼児教育者としての自覚と成長(鈴木智子) 事前学習:これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教諭の専門性、役割等についての質問項目をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:幼稚園教諭に求められる資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2 時間)					

- 第 8 回:教師とは何か(小学校の教師を中心に) ①教師の専門性、②教職という仕事の特質、③教師のリーダーシップ(グループワーク)(伊禮三之)
- 事前学習:教職についてのメタファー(隠喩)を考えて、それをもとに自分の教育観についてまとめておくこと。(2 時間)
- 事後学習:教師の専門性やその仕事の特質について、班ごとのディスカッションや講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。(2 時間)
- 第 9 回:小学校における教師の役割 ①授業をつくる、②授業から学ぶ、③子どもを育む(伊禮三之)
- 事前学習:アクティブ・ラーニングについて調べてまとめておくこと。(2 時間)
- 事後学習:事前学習と算数科におけるアクティブ・ラーニングの事例体験をもとに、その意義等について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2 時間)
- 第 10 回:教職の制度と教師の身分 ①「全体の奉仕者」としての教師、②教師の職務と権限、③基本的な教育法規(伊禮三之)
- 事前学習:制度上の教師について、まとめておくこと。(2 時間)
- 事後学習:教師の制度上の位置づけ等について、講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。(2 時間)
- 第 11 回:小学校教師としてのあり方・生き方 ①教育実習から新任教師へ、②教師としてのアイデンティティ、③中年期の危機、④ベテラン教師として(伊禮三之)
- 事前学習:教職に就いて 10 年目のあなたから現在の自分へのアドバイスにつてまとめておくこと。(2 時間)
- 事後学習:講義をもとに教師のライフステージについて、リフレクションシートにまとめておくこと。(2 時間)
- 第 12 回:学び合うコミュニティとしての学校 ①学校という職場、②学校での授業の探求、③学校における同僚性(伊禮三之)
- 事前学習:自分の母校や連携協力校の教師へ、チーム学校についてインタビューを行いまとめておくこと。(2 時間)
- 事後学習:インタビューや講義をもとに学校における同僚性の意義について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2 時間)
- 第 13 回:開かれた学校づくり ①学校評議員制度、②学校と地域社会との協働関係構築(伊禮三之)
- 事前学習:社会に開かれた教育課程について、新学習指導要領解説を読んでまとめておくこと。(2 時間)
- 事後学習:講義資料等をもとに開かれた学校づくりの意義について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2 時間)
- 第 14 回:教師の未来 ①新しい時代に求められる教師の資質・能力(グループワーク)(伊禮三之)
- 事前学習:小学校教諭に求められる資質・能力について、自分の考えをまとめておくこと。(2 時間)
- 事後学習:講義の資料等と班ごとのディスカッションをもとに新しい時代に求められる小学校教師の資質・能力について、リフレクションシートにまとめておくこと。(2 時間)
- 第 15 回:まとめ(伊禮三之)
- 事前学習:これまでの授業内容を振り返り、小学校教諭の専門性、役割等についてまとめておくこと。(2 時間)
- 事後学習:小学校教諭に求められる資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2 時間)

成績評価方法

レポート(70%)、平常点(30%)

平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

(鈴木智子)

- 1.幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できるか。
- 2.現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像について考えを明確化できているか。
- 3.自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化できているか。

(伊禮三之)

- 1.小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解できているか。
- 2.社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考えることができていくか。
- 3.小学校の教師として実践的な指導力

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☒ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)
- 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

・経歴

（元特別支援学校・高等学校教諭）

・実務経験と授業内容との関連性

（特別支援学校教諭・高等学校教諭として、算数・数学を中心とする授業実践と HR 活動や生徒会活動などの特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。）

テキスト、参考図書

テキスト

(1)「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2019 年

(2)小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月公示 文部科学省)

(3)丹野清彦著「子どもの願い いじめ VS12 の哲学」高文研 2018 年

参考書

(1)岡本夏木著「幼児期—子どもは世界をどうつかむか—」岩波書店 2005 年

(2)「平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」チャイルド本社 2017 年

(3)幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

算数 (Arithmetic)			担当教員	伊禮 三之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2205	2	2 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教科及び教科の指導法に関する科目(教科に関する専門的事項) 領域及び保育内容の指導法に関する科目(領域に関する専門的事項)					
＜科目に含めることが必要な事項＞ 算数					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(選択)					
授 業 の 内 容					
小学校段階では、数学的活動を通して、知識及び技能として習得する具体的な内容は、日常生活に深く関わり、日常生活の場면을数理化して捉える内容が多い。そのため、講義の素材は身近なところから求め、その問題解決の過程において、あらかじめ自己の考えをもって主体的に取り組めるようにし、よりよい解法に洗練させていくための意見の交流や議論など対話的な学びを適宜取り入れて、深い学びを実現する方向で講義を展開し、学生自身の数学的に考える資質・能力の育成と、数学的活動の楽しさを実感し、生涯にわたって学び続ける力の育成を目指す。					
授 業 の 到 達 目 標					
子どもたちの数学的に考える資質・能力を育むためには、教師自身が数学的に考える資質・能力を有している必要がある。そのため、初等数学を高い立場(背景となる学問領域)から見直し、小学校算数に関する教師の専門性を涵養することを目的とする。 1. 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見だし、統合的・発展的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 2. 数学的活動の楽しさや数学のよさに					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他(具体的に記述：)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第1回: 数学的活動について トイレットペーパーを通して日常の事象を数理的に捉える。(実験) 事前学習: 参考書『解説 算数編』第2章第2節2[数学的活動]を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: トイレットペーパーの巻き数の実験から「日常の事象から見いだした問題を解決する活動」について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第2回: 音楽と数学 音楽と数学の意外なつながりに気付く。(グループワークと実技) 事前学習: 第6学年の比について教科書や『解説 算数編』で調べ、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 比をもとに作成した紙笛の演奏実技をもとに「等しい比をつくる」ことのよさについて、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第3回: 数あてマジックカードで遊ぶ 2進法の数学的モデル化を考える。(実技) 事前学習: 十進位取り記数法について教科書や『解説 算数編』で調べ、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: マジックの実技とそのトリック解明をもとに「シャッフルカード」を作成しその感想と合わせて、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第4回: 数あてマジックカードの発展 2進法をもとに発展的に考察し、n 進法へ統合する。(実技) 事前学習: 2進法以外にも記数法が存在するか考えて、考察した要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 3進法マジックが可能かの討議をもとに7進法を活用したサイコロマジックと回転グリルの暗号を作成しその感想と合わせて、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第5回: 数あてマジックのさらなる発展 数学のよさと数学の社会的有用性に気付く。(実技) 事前学習: 2進法⇄10進法の変換について調べ、その要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 誤り訂正符号マジックの実技をもとに1～31 を当てる誤り訂正カードを作成し、感想も合わせリフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第6回: モビールを作る つり合うことの日常事象を数理的に捉え、定式化する。(実験、実技) 事前学習: 「てこの原理」について調べ、その要点をまとめておくこと。(2 時間)					

事後学習:「てこの原理」の実験から重心の求め方を定式化し、7やF等の文字の実技を通して確認し、「6」の文字のモビールを作成し、その感想も合わせてリフレクションシートにまとめる。(2時間) 第7回:三角形を含んだモビールを作る 問題を特殊化し発展させる。(実験、実技) 事前学習:三角形の重心について調べ、その要点をまとめる。(2時間) 事後学習:三角形の重心の位置を実験で確認し、三角形を含む直線図形のモビール作成の実技を通して考察したことをリフレクションシートにまとめる。(2時間) 第8回:算数・数学教育の目標 数学的活動と3つの目標について整理する。 事前学習:参考書『解説 算数編』第2章第1節と各学年の目標を読み、要点をまとめる。(2時間) 事後学習:講義をもとに算数・数学教育の3つの目標と情意的学力について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第9回:魔方陣と奇数法陣への発展 数の性質(魔方陣構成法)を見だし、一般化する。 事前学習:3次の魔方陣について事前に解いて、解とそれに至るプロセスについて、要点をまとめる。(2時間) 事後学習:講義で紹介した奇数法陣の構成法で、講義と違う魔方陣を作成し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第10回:偶数法陣はどうなるの? ラテン法陣へ統合・発展させる。 事前学習:4次の魔方陣について一つ調べ、その解に現れる性質について、要点をまとめる。(2時間) 事後学習:講義で紹介した4次の魔方陣の性質をもとに、公務員試験等に現れる魔方陣を解いて、その解とそれに至るプロセスについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第11回:四角形をしきつめる 図形の性質を見だし、その根拠を数学的に表現する。(実技) 事前学習:参考書『解説 算数編』第3章の各学年の図形の内容の要点をまとめる。(2時間) 事後学習:様々な四角形をしきつめる実技から根拠となる性質について整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第12回:エッシャー絵に挑戦 学んだことを活用する。(討議、実技) 事前学習:くり返しのエッシャー絵についてどんな性質がもたれているのか考え、要点をまとめる。(2時間) 事後学習:エッシャー絵の討議による合同変換の特定と作品のアイデアを考え、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第13回:折り紙で正多面体を作る 図形の性質を見だし、数学的に簡潔・明瞭・的確に表現する。(実技) 事前学習:折り紙から正三角形を、作り出す方法について考え、要点をまとめる。(2時間) 事後学習:正多面体作成の実技をもとに5種類しかないことの簡単な証明について、その活動のプロセスをリフレクションシートにまとめる。(2時間) 第14回:ユニット折り紙で正多面体を作る① 正多面体に成り立つ性質を見出す。(実技) 事前学習:正三角形、正四角形の各ユニットについて必要枚数を事前に作成しておく。(2時間) 事後学習:講義をもとに、オイラーの多面体定理等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第15回:ユニット折り紙で正多面体を作る② 尖角を定式化し、それを統合的・発展的に考える。(討議、実技) 事前学習:正四角形、正五角形の各ユニットについて必要枚数を事前に作成しておく。(2時間) 事後学習:実技及び討議をもとにとがり具合を定式化し、デカルトの定理を帰納的に発見するプロセスを、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
成績評価方法
毎回のA4表裏1枚のリフレクション・レポート(2%×15回)、講義内容を活用したパフォーマンス課題(10%×3回)、テキストの読書レポートと講義終了後の最終レポート(20%×2回)で総合的に評価する。
成績評価基準
・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見だし、統合的・発展的に考察することができたか。また、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりすることができたか。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたか。また、講義で学んだことを生活や学習に活用しようとしたか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (元特別支援学校・高等学校教諭)

・実務経験と授業内容との関連性

(特別支援学校教諭・高等学校教諭として、算数・数学を中心とする授業及び生活指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「算数」の学習指導内容について講義する。)

テキスト、参考図書

テキスト: 小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育 コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018 年

自作のワークシート

参考書・参考資料等: 文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 算数編』東洋館出版、2018 年

黒木哲徳『入門算数学〔第 3 版〕』日本評論社、2017 年

その他（受講上の注意）

ワークシートの保存用のファイルを準備すること。また、毎回作業を多く取り入れるので、ハサミ、定規、スティックのりを常に携帯すること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

算数科教育法 (Teaching Methods of Arithmetic)			担当教員	伊禮 三之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2255	2	2 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教科及び教科の指導法に関する科目(各教科の指導法)					
＜科目に含めることが必要な事項＞ 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
小学校教諭一種免許状(必修)					
授 業 の 内 容					
学習指導要領に示された算数科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。					
授 業 の 到 達 目 標					
算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他(具体的に記述:)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第1回:算数・数学教育の現状と課題(討議) 事前学習:テキスト『入門算数学』の第 7 章を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:講義と討議を通して確認したわが国の算数・数学教育の現状と課題について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第2回:算数科の目標について一資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び 事前学習:参考書『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育』の序章を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:講義をもとに資質・能力とアクティブ・ラーニングについて、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第 3 回:数と計算(1)入門期の算数と子供の認知発達(討議と実技) 事前学習:テキスト『入門算数学』の第 1 章を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:討議と実技を通して確認した入門期の算数について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第 4 回:数と計算(2)子供たちの学力状況と整数の乗除(討議と実技) 事前学習:テキスト『入門算数学』の第 2 章を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:討議と実技を通して確認した主に整数の乗除とその意味に関する現状について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第 5 回:数と計算(3)子供たちのつまずきと小数・分数(討議と実技) 事前学習:テキスト『入門算数学』の第 3 章第 1・2 節及び第 8 節を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:討議と実技を通して確認した小数・分数の意味とつまずきについて、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第 6 回:学習指導案の作成と授業における教師の指導言(発問・指示・説明・評価)(討議) 事前学習:授業における教師の指導言について分類・整理し、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:討議をもとに整理した教師の指導言について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第 7 回:模擬授業の実施と学習評価(討議と実技) 事前学習:数と計算領域における指導案を各自で作成する。(2 時間) 事後学習:模擬授業(代表)に関する留意点(学習評価を含む)を整理し、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第 8 回:図形(1)情報機器の利用と平面図形の性質(面積や角の大きさ含む)(実技) 事前学習:デジタル教科書の活用実践事例を調べ、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:デジタル教科書等の利用を通して考えたその利点と課題について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第 9 回:図形(2)教具の効果的利用と立体図形(実技) 事前学習:小学校の被教育体験のうち教具を利用した授業について、その意義の要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:実技をもとに数学的モデルとしての教具についての意義について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第 10 回:測定 長さ、かさ、重さなどの外延量の4段階指導とその具体化(実技)					

事前学習:テキスト『入門算数学』の第3章第6節第7節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:実技を通して学んだ外延量について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第11回:模擬授業の実施と学習指導の創意・工夫(板書やノート指導など)(実技と発表) 事前学習:図形または外延量に関する指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習:模擬授業(代表)に関してその創意・工夫を中心とした省察の発表を整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第12回:変化と関係(1)速さなどの内包量と比例(実験) 事前学習:テキスト『入門算数学』の第6章第3節第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:単位当たり量の実験を通して考えた内包量(混み具合等)について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第13回:変化と関係(2)及びデータの活用 割合とデータの分類整理・棒グラフの活用(実技) 事前学習:テキスト『入門算数学』の第6章第5節第6節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:グラフ作成等の実技をもとにデータの活用の意義等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第14回:模擬授業の実施とパフォーマンス課題(実技) 事前学習:変化と関係または割合等に関するパフォーマンス課題を含んだ指導案を各自で作成する。(2時間) 事後学習:模擬授業(代表)に関する省察(主にパフォーマンス課題)の発表を、リフレクションシートにまとめる。(2時間) 第15回:真正の学習とこれからの算数教育 事前学習:参考書『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育』の第7章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:講義をもとに学力の質とパフォーマンス課題等真正の学習について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
成績評価方法
毎回のA4表裏1枚のリフレクション・レポート(30%)、模擬授業のリフレクションレポート(15%×3回)、講義終了後の最終レポート(25%)で総合的に評価する。
成績評価基準
・算数科における教育目標、育成すべき資質・能力を理解できたか。 ・学習指導要領に示された各領域の内容を背景となる学問領域と関連させて理解できたか。 ・様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (元特別支援学校・高等学校教諭) ・実務経験と授業内容との関連性 (特別支援学校教諭・高等学校教諭として、算数・数学を中心とする授業実践と生活指導実践、また小学校教員と協同して算数の教材開発や授業研究等を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「算数科」の学習指導内容およびその指導法について講義する。)
テキスト、参考図書
テキスト:黒木哲徳『入門算数学[第3版]』日本評論社、2017年 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編』東洋館出版、2018年 参考書・参考資料等:小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育 コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年
その他(受講上の注意)
小学校学習指導要領(平成29年3月)の総則と第2章第3節「算数」及び同解説の「算数」は、講義に関連する項目の事前・事後に必ず読むこと。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

教育課程論Ⅱ (Theory of CurriculumⅡ)			担当教員	伊禮 三之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2252	2	2 年後期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 基幹科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教育の基礎的理解に関する科目					
＜科目に含めることが必要な事項＞ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
小学校教諭一種免許状(必修)					
授 業 の 内 容					
学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。					
授 業 の 到 達 目 標					
学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことに意義を理解する。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述:)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第1回:教育課程(カリキュラム)とは何か 事前学習:『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編』第 1 章を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:講義をもとに『総則編』第2章を読み教育課程の基準について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第2回:教育課程の編成と学習指導要領 事前学習:『解説 総則編』第3章第1節1・2を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:講義をもとに教育課程の編成について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第3回:アクティブ・ラーニングと資質・能力ーコンテンツからコンピテンシー・ベースのカリキュラムへ 事前学習:『解説 総則編』第3章第1節3を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:講義をもとに育成を目指す資質・能力について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第4回:主体的・対話的で深い学びと見方・考え方ー事例を通して(グループワークと討議) 事前学習:『解説 総則編』第3章第3節1を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第5回:社会に開かれた教育課程と学びの地図ーカリキュラム・マネジメントの意義 事前学習:『解説 総則編』第3章第1節4を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:講義をもとに社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメントについて、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第6回:教育課程の実施と学習評価及び学校間段階の接続について 事前学習:『解説 総則編』第3章第2節・第3節を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:講義をもとに教育課程の実施と学習評価及び幼小接続について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第7回:特色ある学校の教育課程(1)ー事例①(グループワークと討議) 事前学習:『解説 総則編』第3章第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:連携協力校の事例をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第8回:特色ある学校の教育課程(2)ー事例②(グループワークと討議) 事前学習:『解説 総則編』第3章第5節を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:連携協力校の事例をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)					
第9回:教育課程と特別活動 事前学習:『解説 特別活動編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間)					

事後学習:講義をもとに教育課程と特別活動について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間) 第 10 回:特別活動の目標と内容(グループワーク) 事前学習:目標と内容に関するグループワークに向けて『解説 特別活動編』第2章を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:グループワークをもとに特別活動の目標と内容の概要について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間) 第 11 回:特別活動の内容とその実際(1)―事例①学級活動を中心に(グループワークと発表) 事前学習:『解説 特別活動編』第3章第1節を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:事例を通したグループワークと発表をもとに学級活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間) 第 12 回:特別活動の内容とその実際(2)―事例②児童会活動を中心に(グループワークと発表) 事前学習:『解説 特別活動編』第3章第2節を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:事例を通したグループワークと発表をもとに児童会活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間) 第 13 回:特別活動の内容とその実際(3)―事例③クラブ活動を中心に(グループワークと発表) 事前学習:『解説 特別活動編』第3章第3節を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:事例を通したグループワークと発表をもとにクラブ活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間) 第 14 回:特別活動の内容とその実際(4)―事例④学校行事を中心に(グループワークと発表) 事前学習:『解説 特別活動編』第3章第4節を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。(2 時間) 第 15 回:教育課程及び特別活動のまとめと今後の課題 事前学習:『解説 特別活動編』第4章を読み、要点をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:教育課程及び特別活動について、この講義で学んだことについて、リフレクションシートにまとめる。(2 時間)
成績評価方法 毎回の A4裏表1枚のリフレクション・レポート(2%×15 回)、ワークショップレポート(5%×8回)、講義内容に関連するレポート(15%×2 回)で総合的に評価する。
成績評価基準 教育課程の意義や編成と実施の仕方、評価と改善について理解できたか。 教育課程の基準としての学習指導要領について理解できたか。 学校の教育計画の全体構造について理解し、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの意義を理解できたか。 特別活動の目標とその内容を理解できたか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性) ・経歴 (元特別支援学校・高等学校教諭) ・実務経験と授業内容との関連性 (特別支援学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生活指導実践を行ってきた経験と算数・数学のカリキュラム開発や学校設定科目の開発、総合的な学習の時間のカリキュラム開発等の経験と教育課程係担当の経験を有する教員が、カリキュラム編成や学習指導要領の理解等、教育課程に関わり、教員が必要とする専門性・技能等について講義する。)
テキスト、参考図書 テキスト:文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編』東洋館出版、2018 年 文部科学省『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別活動編』東洋館出版、2018 年 田中耕治 他『新しい時代の教育課程 第 4 版』有斐閣アルマ、2018 年 参考書・参考資料等:丹野清彦著『子どもの願い いじめ VS12 の哲学』高文研、2018 年

その他（受講上の注意）

学習指導要領の改訂やその実施に関するニュース等に関心を持ち、国や福井県の動向を把握すること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

教職実践演習(幼・小) (Seminar on the Teaching Profession (Preschool & Elementary))			担当教員	高野 秀晴、鈴木 智子、伊禮 三之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-G-2454	2	4 年後期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教職に関する科目(教職実践演習)					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)					
授 業 の 内 容					
本授業は、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着と実践的指導力の育成を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできることを目的とする。授業方法としては、ロールプレイングやグループ討論、事例研究、模擬授業などを取り入れ、学びの集大成とする。 なお、本授業は、教科に関する科目及び教職に関する科目担当者 3 人がオムニバス形式で行うこととし、教師の意義と使命・幼稚園教諭・小学校教諭の各視点から、自己にとっての課題を考えさせ、その課題解決を通して、実践的					
授 業 の 到 達 目 標					
教職の意義や使命、役割について説明することができる。 教員に求められる資質能力について説明することができる。 教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化することができる。 幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。 小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。					
アクティブ・ラーニング					
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他(模擬授業)					
授業計画及び授業外の学修方法					
高野秀晴担当分(5 回) 第 1 回 教員の意義と使命、役割について(事例研究) 事前学習:実習時の記録を読み直し、検討を要するエピソードをピックアップする。(2 時間) 事後学習:授業時に検討した事例をもとに、教員の意義と使命、役割についてレポートにまとめる。(2 時間) 第 2 回 地域・家庭と連携するための方策を考える(グループ討論) 事前学習:実習時の記録を読み直し、実習時に地域・家庭とどのような関わりがあったかを整理する。(2 時間) 事後学習:地域・家庭との連携・協働を深めるにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。(2 時間) 第 3 回 教員に求められる資質能力を明確化する(グループ討論) 事前学習:履修カルテを読み、これまでに身に付けられた資質能力を自分なりにカテゴライズする。(2 時間) 事後学習:これまでに身に付けた資質能力を教職に活かすための方途をレポートにまとめる。(2 時間) 第 4 回 教員に求められる社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいか(ロールプレイング) 事前学習:社会性や対人関係能力に関する図書を調べる。(2 時間) 事後学習:社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。(2 時間) 第 5 回 今後の課題を明確化する(グループ討論とレポート) 事前学習:履修カルテを読み、今後身に付けるべき資質能力をピックアップする。(2 時間) 事後学習:履修カルテ、および、これまでにまとめたレポートを基にして、自身の今後の課題についてレポートにまとめる。(2 時間)					
鈴木智子担当分(5 回) 第 6 回 幼児教育者に求められる資質能力を明確化する(グループ討論) 事前学習:これまでの学修や実習体験を振り返り、幼稚園教諭に求められる資質能力について、自分の意見をまとめておく。(2 時間) 事後学習:履修カルテを読み、授業時のグループ討論も踏まえて、幼稚園教諭としての自分の課題をレポートにまとめる。(2 時間)					

第 7回 実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える(ロールプレイングとグループ討論)

事前学習:これまでの実習体験における「気になる子」への関わりを振り返り、自分の関わりのねらいや反省点についてまとめる。(2 時間)

事後学習:「気になる子」への指導を通して、幼児理解、クラス運営のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。(2 時間)

第 8回 自らの課題を洗い出し、幼児理解を深める方策を考える(事例研究とグループ討論)

事前学習:ドキュメンテーション、ポートフォリオなどの保育記録の方法について、事前に調べ、質問項目をまとめる。(2 時間)

事後学習:授業内での事例の記録を通して、幼児の様子を考察する方法を利用して、実習記録を読み直し、自身の幼児理解を再度考察する。(2 時間)

第 9回 自らの課題を洗い出し、実践的指導力を培う方策を考える(模擬授業とグループ討論)

事前学習:実習体験を踏まえて、自分が課題とするテーマの遊びを調べて、模擬授業として発表できる準備をしておく。(2 時間)

事後学習:授業での他の学生の模擬授業を踏まえて、多様な遊びを調べ、そのねらいについて、レポートにまとめる。(2 時間)

第10回 これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する(グループ討論とレポート)

事前学習:幼稚園教育要領を読み、求められる幼児教育について考え、質問項目をまとめる。(2 時間)

事後学習:これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教育要領が求める幼児教育を踏まえた上で、自身の課題をレポートにまとめる。(2 時間)

伊禮三之担当分(5 回)

第11回 各自が課題を洗い出し、全員でいくつかの課題に集約する。その解決のための学習計画を立てる。

(話し合いと協働作業)

事前学習:これまでの学修や実習体験を振り返り、各自が課題を洗い出し、自分の意見をまとめる。(2 時間)

事後学習:講義の話し合いと協働作業を踏まえ、焦点化した課題(問い)について学習計画の細部を立案し、リフレクションレポートにまとめる。(2 時間)

第12回 学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。

(例:授業の構成の仕方 グループ討論)

事前学習:グループごとの課題について解決案に対する自分の意見をまとめる。(2 時間)

事後学習:グループごとの話し合いと協働作業(エキスパート活動)を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。(2 時間)

第13回 学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。

(例:発問と応答について ロールプレイング)

事前学習:各グループの課題について、自分なりの解決案について考えをまとめる。(2 時間)

事後学習:新しいグループごとの話し合いと協働作業(ジグソー活動)を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。(2 時間)

第14回 学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。

(例:子ども理解について 事例研究)

事前学習:最初の課題(問い)について、自分なりの解決案について考えをまとめる。(2 時間)

事後学習:元のグループごとの話し合いと全体的な話し合い(クロストーク)を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。(2 時間)

第15回 学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。これまでの学びを振り返る。

(例:学級経営について グループ討論とレポート)

事前学習:最初に立てられた課題(問い)に再び向き合い、各個人で問いに対する答えをまとめる。(2 時間)

事後学習:これまでの授業内容を振り返り、各個人の課題をレポートにまとめる。(2 時間)

本授業は、これまでの学びの集大成であるため、これまでの学習内容を振り返り、整理する作業が必要となる。また、この作業を通じて見出された今後の課題に応じて、各自に補完的な学習が求められる。

成績評価方法

レポート(25%)

事例研究の内容(25%)

グループ討論やロールプレイングの参加状況(25%)

模擬授業の内容(25%)

成績評価基準

教職の意義や使命、役割について説明することができるか。

教員に求められる資質能力について説明することができるか。

教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化できているか。

幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。

小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

3)小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて)

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(元特別支援学校・高等学校教諭)

・実務経験と授業内容との関連性

(特別支援学校教諭・高等学校教諭として、算数・数学を中心とする授業実践と HR 活動や生徒会活動などの特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について実践的な活動を通して講義する。)

テキスト、参 考 図 書

参考図書は授業時に紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

理科 (Science)			担当教員	西出 和彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2254	2	2 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教科及び教科の指導法に関する科目(教科に関する専門的事項)					
＜科目に含めることが必要な事項＞ 理科					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
小学校教諭一種免許状(必修)					
授 業 の 内 容					
小学校理科で扱う内容を理解し、次の6項目の目標を達成するためにどのような授業を行ったら良いかを考える。①自然に親しむこと。②見通しをもって観察、実験などを行うこと。③問題解決の能力を育てること。④自然を愛する心情を育てること。⑤自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること。⑥科学的な見方や考え方を養うこと。					
授 業 の 到 達 目 標					
小学校理科の教育内容をよく理解し、授業の目的、目標に応じて、適切な教材を開発することができる。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他(具体的に記述:)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第1回:学習指導要領の特色とその背景・子どもの学びの実体と理科を学ぶ力 事前学習:学習指導要領を読む(2 時間)。 事後学習:学習指導要領について振り返り、具体的な学習内容と関連づける(2 時間)。 第2回:理科の見方・考え方 事前学習:理科の見方・考え方について調べてまとめる(2 時間)。 事後学習:理科の見方・考え方とは何かについてレポートをまとめる(2 時間)。 第3回:理科の授業における ICT の活用方法や各種教材教具の使い方 事前学習:理科の授業に有効な方法を考える(2 時間)。 事後学習:どのような場面で、何を使用すれば、より効果的なのかを整理する(2 時間)。 第4回:3 年生理科のポイント(比較しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:3 年生理科の学習内容を把握する(2 時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2 時間)。 第5回:3 年生理科(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「比較しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:3 年生理科の学習内容を把握する(2 時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2 時間)。 第6回:4 年生理科のポイント(働きや時間などと関係付けながらしらべる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:4 年生理科の学習内容を把握する(2 時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2 時間)。 第7回:4 年生理科①(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:4 年生理科の学習内容を把握する(2 時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2 時間)。 第8回:4 年生理科②(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:4 年生理科の学習内容を把握する(2 時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2 時間)。 第9回:5 年生理科のポイント(変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技)					

事前学習:5年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第10回:5年生理科①(授業準備,後始末,振り返り,授業評価)を通して,「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習:5年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第11回:5年生理科②(授業準備,後始末,振り返り,授業評価)を通して,「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習:5年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第12回:6年生理科のポイント(要因や規則性,関係を推論しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習:6年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第13回:6年生理科①(授業準備,後始末,振り返り,授業評価)を通して,「要因や規則性,関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習:6年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第14回:6年生理科②(授業準備,後始末,振り返り,授業評価)を通して,「要因や規則性,関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク・発表・実験・実技) 事前学習:6年生理科の学習内容を把握する(2時間)。 事後学習:単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する(2時間)。 第15回:指導と評価の一体化:評価に基づいて指導に生かすための基礎的理解 事前学習:評価の観点と評価方法を確認する(2時間)。 事後学習:それぞれの評価が適正に行われるための指導方法について振り返る(2時間)。 定期試験は実施しない。 小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。	
成績評価方法	
レポート(50%),提出物(30%),授業の取り組み(20%)	
成績評価基準	
(1)小学校理科の授業内容を理解している。 (2)学習内容の目標に応じて、適切な指導方法を指摘することができる。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて) □ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)	
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 (元小学校講師・元中・高校教諭) ・実務経験と授業内容との関連性 (小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示されている領域「環境」の内容について、保育者の援助方法、保育計画および実践、評価について実践的に講義する。)	
テキスト、参考図書	
(1) 小学校理科教科書 (2) 文部科学省著「小学校学習指導要領解説 理科編」東洋館出版社 平成29年7月	
その他(受講上の注意)	

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

理科教育法 (Teaching Methods of Science)			担当教員	西出 和彦
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-B-2256	2	2 年後期	講義	選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教科及び教科の指導法に関する科目(各教科の指導法)				
＜科目に含めることが必要な事項＞ 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)				
求める学習成果(教育目標)				
教育・保育の内容の理解及び指導方法				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 ■自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力				
資格・免許の要件				
小学校教諭一種免許状(必修)				
授 業 の 内 容				
小学校理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				
授 業 の 到 達 目 標				
学習指導要領に示された小学校理科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング				
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☒ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)				
授業計画及び授業外の学修方法				
第1回：学習指導要領の特色とその背景・子どもの学びの実体と理科を学ぶ力 事前学習：学習指導要領を読む(2 時間)。 事後学習：学習指導要領について振り返り、具体的な学習内容と関連づける(2 時間)。 第2回：学習指導案の書き方、評価の方法(ルーブリックの作成) 事前学習：学習指導案の書き方やルーブリックによる評価について予習する(2 時間)。 事後学習：学習指導案の書き方のポイントや評価規準、評価基準などについて整理する(2 時間)。 第3回：指導技術：ICT の活用、板書の方法、各種教材教具の使い方 事前学習：ICT の活用などの有効な指導について調べる(2 時間)。 事後学習：具体的な指導例を調べる(2 時間)。 第4回：3 年生理科のポイント(比較しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：3 年生理科の概要を調べる(2 時間)。 事後学習：3 年生理科で用いる実験器具について復習する(2 時間)。 第5回：模擬授業 3 年生理科(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「比較しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2 時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2 時間)。 第6回：4 年生理科のポイント(働きや時間などに関係付けながらしらべる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：4 年生理科の概要を調べる(2 時間)。 事後学習：4 年生理科で用いる実験器具について復習する(2 時間)。 第7回：模擬授業 4 年生理科①(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「働きや時間などに関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2 時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2 時間)。 第8回：模擬授業 4 年生理科②(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「働きや時間などに関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2 時間)。 事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2 時間)。 第9回：5 年生理科のポイント(変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技)				

事前学習:5年生理科の概要を調べる(2 時間)。 事後学習:5年生理科で用いる実験器具について復習する(2 時間)。 第 10 回:模擬授業 5 年生理科①(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2 時間)。 事後学習:模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2 時間)。 第 11 回:模擬授業 5 年生理科②(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2 時間)。 事後学習:模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2 時間)。 第 12 回:6 年生理科のポイント(要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:6年生理科の概要を調べる(2 時間)。 事後学習:6年生理科で用いる実験器具について復習する(2 時間)。 第 13 回:模擬授業 6 年生理科①(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2 時間)。 事後学習:模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2 時間)。 第 14 回:模擬授業 6 年生理科②(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技) 事前学習:模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2 時間)。 事後学習:模擬授業の反省を行い、課題を整理する(2 時間)。 第 15 回:指導と評価の一体化:評価に基づいて指導に生かすための基礎的理解 事前学習:評価の観点と評価方法を確認する(2 時間)。 事後学習:それぞれの評価が適正に行われるための指導方法について振り返る(2 時間)。 小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。	
成績評価方法	
レポート(50%), 提出物(40%), 平常点(10%)	
成績評価基準	
(1)小学校理科の授業内容を理解している。 (2)学習内容の目標に応じて、適切な学習指導ができる。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)	
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 (元小学校講師・元中・高校教諭) ・実務経験と授業内容との関連性 (小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示されている領域「環境」の内容について、保育者の援助方法、保育計画および実践、評価について実践的に講義する。)	
テキスト、参考図書	
(1) 小学校理科教科書 (2) 文部科学省著「小学校学習指導要領解説 理科編」東洋館出版社 平成 29 年 7 月	
その他(受講上の注意)	

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

保育内容指導法(環境) (Teaching method of Early Childhood Care and Education (Enviroment))			担当教員	西出 和彦
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-B-2203	2	2 年前期	演習	選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目				
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 領域及び保育内容の指導法に関する科目				
＜科目に含めることが必要な事項＞ 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
求める学習成果(教育目標)				
教育・保育の内容の理解及び指導方法				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
□体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■総合的な学習経験 □キャリアプランニング能力				

資格・免許の要件	
幼稚園教諭一種免許状(選択), 保育士資格(必修)	
授 業 の 内 容	
領域「環境」の意義を捉えることと、その指導法の習得を目的とする。幼児の心身成長に自然環境や社会環境、物的環境や人的環境が重要な役割を果たしていることを理解する。その上で、自然環境を活かした保育の方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。	
授 業 の 到 達 目 標	
幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。	
アクティブ・ラーニング	
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述:)	
授業計画及び授業外の学修方法	
第1回: 幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容 事前学習: 幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいを読んでおく(2 時間)。 事後学習: ねらいをレポートとしてまとめる(2 時間)。 第2回: 物の性質に気づき、考え、関心をもつという一連の活動(発表) 事前学習: ものや道具に関わる遊びについて調べる(2 時間)。 事後学習: ものや道具に関わって遊ぶことについてレポートとしてまとめる(2 時間)。 第3回: 身近な素材を活用した遊びをテーマにした模擬保育、領域「環境」の評価の考え方(発表) 事前学習: 身近な素材を活用した遊びについて調べる(2 時間)。 事後学習: 身近な素材を活用した遊びについてレポートとしてまとめる(2 時間)。 第4回: 身近な素材を取り入れた遊びから探究心を育てる活動(発表) 事前学習: 身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについて調べる(2 時間)。 事後学習: 身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについてレポートとしてまとめる(2 時間)。 第5回: 自然の中のものをテーマに気づきを引き出す活動(フィールドワーク) 事前学習: 自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法を調べる(2 時間)。 事後学習: 自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法についてレポートとしてまとめる(2 時間)。 第6回: ものの性質や仕組みに気づき仲間と共有する活動を取り入れた模擬保育(発表・実技) 事前学習: 文字や標識、数量や図形に関心をもたせる方法を調べる(2 時間)。 事後学習: 文字や標識、数量や図形に関心をもたせる方法についてレポートとしてまとめる(2 時間)。 第7回: 動物の飼育、観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動(情報機器の活用も含む)(発表) 事前学習: 動物の飼育、観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例を調べる(2 時間)。 事後学習: 動物の飼育、観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例をレポートとしてまとめる(2 時間)。 第8回: 植物の栽培、観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動(情報機器の活用も含む)(発表) 事前学習: 植物の栽培、観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例を調べる(2 時間)。 事後学習: 植物の栽培、観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例をレポートとしてまとめる(2 時間)。 第9回: 植物の特徴を利用した模擬保育(発表・実技) 事前学習: 植物の特徴を利用した模擬授業の指導計画を立てる(2 時間)。 事後学習: 植物の特徴を利用した活動例をレポートとしてまとめる(2 時間)。 第10回: 生き物との関わり合いの中で思考力を育てる活動を取り入れて模擬保育(発表・実技)	

保育実践演習 (Seminar on Practice in Early Childhood Care and Education)			担当教員	鈴木 智子、森尾 恵里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-G-2366	2	3 年後期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 実践演習・総合演習・実習科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞					
＜科目に含めることが必要な事項＞					
求める学習成果(教育目標)					
探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 ■キャリアプランニング能力					

資格・免許の要件
保育士資格(必修)
授業の内容
保育に関するこれまでの学びをグループワークで振り返り、習得した専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等を整理し、発表・討論する。また保育に関する現代的課題から関心のあるテーマを設定し、グループワーク・プレゼンテーションを通して、保育のあり方を分析・検討し、考察し、各学生の課題、今後に向けて取り組むべきことを明確化する。
授業の到達目標
・これまでの保育に関する学びを振り返り、保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたことを確認する。 ・保育に関する現代的課題について、関心のあるテーマを設定し、保育士として乳幼児をどのように理解し、また保育を進めていくべきかについて分析・検討し、考察する力を習得する。 ・保育の実践における自己の課題を明確化し、必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。
アクティブ・ラーニング
☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☒ グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回:オリエンテーション:各自の学びを振り返る(保育内容、倫理観、社会性、保護者支援と連携、職員間・他機関との連携など)(鈴木) 事前学習:授業前にこれまでの学修を振り返り、保育実践に関する自分の課題をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:授業で示された保育に関する現代的課題について、図書館やインターネットを利用して調べた内容をレポートにまとめておく。(2 時間) 第 2 回:グループ討論(テーマ設定)(PBL、グループワーク)(鈴木) 事前学習:保育所保育指針解説第 1 章総則を読み、保育所保育の基本原則、幼児教育を行う施設として共有すべき事項についてまとめておく。(2 時間) 事後学習:グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。(2 時間) 第 3 回:グループ討論(発表内容のまとめ)(PBL、グループワーク)(鈴木) 事前学習:グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。(2 時間) 事後学習:発表内容のまとめを振り返り、発表の練習をしておく。(2 時間) 第 4 回:グループによる発表・全体的討論(PBL、ディスカッション、発表)(鈴木) 事前学習:予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。(2 時間) 事後学習:他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。(2 時間) 第 5 回:グループによる発表・全体的討論(PBL、ディスカッション、発表)(鈴木) 事前学習:予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。(2 時間) 事後学習:他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。(2 時間) 第 6 回:グループによる発表・全体的討論(PBL、ディスカッション、発表)(鈴木) 事前学習:予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。(2 時間) 事後学習:他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。(2 時間) 第 7 回:発表・全体的討論を踏まえた発表内容の再検討(グループワーク)(鈴木) 事前学習:全体的討論を踏まえて、自身のグループ発表の修正箇所を各自でまとめておく。(2 時間)

事後学習:発表内容の修正を踏まえて、どこが不十分で、どのように修正したのかについての要点をまとめておく。(2 時間) 第 8 回:保育に関する知識・技術・能力等に対する今後の課題の明確化(鈴木) 事前学習:各グループの発表を踏まえて、保育における現代的課題に対する質問項目をまとめておく。(2 時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、保育の現代的課題に対応するために必要な資質・能力についてレポートにまとめておく。(2 時間) 第 9 回:課題の明確化, 課題設定, 情報収集, 考察, 評価などについての概論(森尾) 事前学習:保育における現代的課題を整理しておく。(2 時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、課題設定から評価に至るまでの活動を確認し、見通しを立てる。(2 時間) 第 10 回:グループ討論(テーマ設定)(PBL、ディスカッション、グループワーク)(森尾) 事前学習:現代的課題の中からテーマを選ぶための準備をしておく。(2 時間) 事後学習:自身のグループで設定した課題に対する情報収集の方法を確認し、見通しを立てる。(2 時間) 第 11 回:グループ討論(資料収集・整理)(PBL、ディスカッション、グループワーク)(森尾) 事前学習:グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。(2 時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、さらに必要な情報を整理する。(2 時間) 第 12 回:グループ討論(資料収集・整理)(PBL、ディスカッション、グループワーク)(森尾) 事前学習:グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。(2 時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、さらに必要な情報を整理する。(2 時間) 第 13 回:グループ討論(課題に対する主張とその根拠の明確化)(PBL、ディスカッション、グループワーク)(森尾) 事前学習:設定した課題に対して一定の結論が導き出せているかを精査し、問題点を整理しておく。(2 時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、自身のグループ発表の論理展開を確認する。(2 時間) 第 14 回:グループ討論を踏まえた発表内容の再検討(PBL、ディスカッション、グループワーク)(森尾) 事前学習:予定されている発表内容に対する自身の理解を深め、発表内容を検討する(2 時間) 事後学習:グループ討論を振り返り、課題に対する取り組みを明確にする(2 時間) 第 15 回:保育の現代的課題における自己の今後の課題と取り組み方法の明確化(発表)(森尾) 事前学習:予定されている発表内容について確認し、想定される質問項目をまとめておく。(2 時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、保育の現代的課題に対応するために必要な資質・能力について振り返る。(2 時間)
成績評価方法
平常点(20%)、グループ発表・討議(40%)、レポート(40%)
成績評価基準
保育に関する諸課題の中からテーマを取り上げ、そのテーマについて、グループワークで分析、考察を行い、発表することができたか。 グループワークで協働して取り組み、各自が役割上の責務を果たすことができたか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述: _____) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述: _____) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述: _____) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述: _____) 5) その他(自由記述: _____)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述: _____)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (元保育士) ・実務経験と授業内容との関連性 (保育士として、保育実践を行ってきた経験を有する教員が、保育に関する諸課題について、実践的に分析、考察、検討する。)
テキスト、参考図書
必要に応じてプリントを配布する。
その他(受講上の注意)
担当者 2 人が分担し、計 15 回の授業を行う。欠席が全 15 回の 3 分の 1 を超えると失格となる。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

国語 (Japanese Language)			担当教員	三田村 雅人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2153	2	1 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教科及び教科の指導法に関する科目(教科に関する専門的事項) 領域及び保育内容の指導法に関する科目(領域に関する専門的事項)					
＜科目に含めることが必要な事項＞ 国語(書写を含む。)					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)					
授 業 の 内 容					
小学校指導要領「国語」の内容を踏まえながら、小学校教諭、幼稚園教諭として国語の力を身につける。					
授 業 の 到 達 目 標					
自らの言語感覚を磨き国語に対する関心を深めて、自信をもって国語科の指導ができる。					
アクティブ・ラーニング					
□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他(具体的に記述:)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第1回: 全体の授業概要の説明及び受講における心構え 事前学習: 「小学校学習指導要領解説国語編」第 1 章を読んで質問事項をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業での学修を参考にして「小学校学習指導要領解説国語編 第 1 章」「幼稚園教育要領 言葉」を読んで関連性をノートにまとめておくこと。(2 時間)					
第2回: 学習指導要領における「国語」について 事前学習: ①「小学校学習指導要領解説国語編 第2章国語科の目標および内容」を読んで質問事項をまとめておくこと。②各自が持っている国語便覧の「文学史」を読み、日本文学についてまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: ①「小学校学習指導要領解説国語編」を読んで各領域における学年ごとの目標②時代を代表する文学の作品名や作者名、及び内容の概略の 2 点について調べ、それぞれノートにまとめておくこと。(2 時間)					
第3回: 国語の基礎①声の表現 (ワークショップ) 事前学習: 「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容 A 話すこと・聞くこと P28~31」を読んで質問事項をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 「話すこと・聞くこと」の活動を形態によって分類し、実際に行う場合の留意点についてノートに整理しておくこと。(2 時間)					
第4回: 国語の基礎②漢字(送り仮名・仮名遣い・白川文字) (実技) 事前学習: 「小学校学習指導要領解説国語編国語科」の付録3(学年別漢字配当表)を参考に漢字の復習をしておくこと。白川文字学について調べておくこと(2 時間) 事後学習: ①現代仮名遣い及び送り仮名の付け方について例解辞典等で確認しておくこと。 ②都道府県名及び県庁所在地名を、漢字で正しく書けるように練習すること。(2 時間)					
第5回: 国語の基礎③カタカナ・ローマ字 (実技) 事前学習: 図書館や参考文献等でカタカナの由来やもとなった漢字、ローマ字表記について調べ、質問事項をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 小学校3年生の国語の教科書からローマ字に関する教材文を参考にして、ローマ字で50単語程度の日記を書いてみること。(2 時間)					
第6回: 国語の基礎④ひらがな (実技) 事前学習: 図書館や参考文献等でひらがなの由来やもとなった漢字、鉛筆の持ち方について調べ、質問事項をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: ひらがなの字源を調べたり、文字の概形や組み立て方を確認したりして、字形指導の効果的な指導計画を立ててみること。(2 時間)					
第7回: 国語の基礎⑤板書・原稿用紙の使い方 (実技)					

事前学習:小テストに備えて既習事項の復習をしておくこと。(2 時間) 事後学習:小テストの解答をもとに誤答を中心に復習をしておくこと。(2 時間) 第8回:国語の基礎⑥文法・敬語 (実技) 事前学習:各自が持っている国語便覧の「口語文法」の項目を読み、質問事項をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:口語文法と敬語に関する復習課題を課す。(2 時間) 第9回:国語の基礎⑦古典(1)古文<百人一首> (グループワーク) 事前学習:各自が持っている国語便覧の「百人一首」の項目を読み、何首かは暗唱できるようにしておくこと。(2 時間) 事後学習:百人一首に関する復習課題を課す。競技カルタのルールを習得しておくこと。(2 時間) 第10回:国語の基礎⑧手紙文はがき文の書き方、NIE(実技) 事前学習:手紙文はがき文の書き方、時候の挨拶について調べておくこと。(2 時間) 事後学習:新聞記事やコラムを活用したNIEの指導計画を立ててみる。(2 時間) 第11回:国語の基礎⑨文章(小論文・随筆等)の書き方 (ワークショップ) 事前学習:「ふくい風花文学賞 入賞作品集」を読んで感想をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:著名人の随筆やエッセイを読み、書きぶりの特徴やよさについてまとめること。(2 時間) 第12回:国語の基礎⑩熟語・慣用句他 (グループワーク) 事前学習:自分が知っている「四字熟語」について読み方や由来、今日的な使われ方等についてまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:授業中に紹介された「四字熟語」の中で、意味がわからないものについて調べ、ノートにまとめておくこと。また、それらを使って短文づくりをすること。(2 時間) 第13回:書写(実技) 事前学習:「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容(3我が国の言語文化に関する事項○書写)」を読んで質問事項をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:小学校の書写教科書を読んで、書写教育の今日的意義についてノートにまとめておくこと。(2 時間) 第14回:指導者としての国語力 (ディスカッション) 事前学習:「小学校学習指導要領解説国語編の付録3(小学校教育要領 第 2 章第 1 節国語)付録10(幼稚園教育要領)」を読んでまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:幼小の教育者として今日求められている国語力について自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 第15回:全体の総括及び小テストの解説 事前学習:小テストに備えて、既習事項の復習をしておくこと。(2 時間) 事後学習:教育要領「言葉」や指導要領「国語」の記述を参照しながら、この講義を受講して具体的にどのようなことを学んだかノートにまとめること。(2 時間)	
成績評価方法	
学期末レポート(50%)、授業内の小テスト(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)	
成績評価基準	
国語を学ぶ意義を理解し、提出物や実技を通して自らの国語の力を高められたか。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて) □ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)	
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 (元小・中学校教諭) ・実務経験と授業内容との関連性 (小学校教諭・中学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容について講義する。)	
テキスト、参考図書	
『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成 29 年 7 月	

その他（受講上の注意）

書写や実技の回では、その都度持ち物を指示します。各自で持参してください。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

国語科教育法 (Teaching Methods of Japanese Language)			担当教員	三田村 雅人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CE-B-2351	2	3 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目					
＜教員免許法施行規則上の科目区分＞ 教科及び教科の指導法に関する科目(各教科の指導法)					
＜科目に含めることが必要な事項＞ 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)					
求める学習成果(教育目標)					
教育・保育の内容の理解及び指導方法					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■体系的な知識・技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成・社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解・自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力					
資格・免許の要件					
小学校教諭一種免許状(必修)					
授 業 の 内 容					
学習指導要領に示された小学校国語科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。					
授 業 の 到 達 目 標					
小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科お内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身につける。					
アクティブ・ラーニング					
■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) □実習、フィールドワーク ■実験、実技 □その他(具体的に記述:)					
授業計画及び授業外の学修方法					
第1回: 新学習指導要領における国語科の目標・内容・構造の特色とその背景 事前学習:テキスト「小学校学習指導要領解説 国語編」の第1章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:「初等国語教育の基本的視点」について、テキスト「初等国語科教育」等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2 時間)					
第2回: 発問 話し合い活動 (課題解決型学習・発表) 事前学習:よい発問とはどのような発問か、よい話し合い活動とはどのような話し合いかについて調べておくこと。(2 時間) 事後学習:図書館や書店、インターネット等で、国語教育に関してどのような書籍や雑誌があるかを探り、見つけた本の内容や読んでみたい本についてノートにまとめること。(2 時間)					
第3回: 今日の課題「言葉による見方・考え方」、指導技術「ICT の活用」、板書の仕方 (討議・実技) 事前学習:テキストの第2章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:「メディアリテラシー・ICT の活用」について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2 時間)					
第4回: 国語科学習指導案の書き方、評価の仕方 (実技・グループワーク) 事前学習:テキストの第4章(1・2)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと(2 時間) 事後学習:「学習指導案が持つ意義と指導案作成の実際」について、テキスト等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2 時間)					
第5回: 教材研究の方法と学習指導案作成①「読むこと」の教育(物語文教材) (グループワーク・発表) 事前学習:テキストの第3章第1節(2 思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:「文学的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2 時間)					
第6回: 教材研究の方法と学習指導案作成②「読むこと」の教育(説明文教材)(グループワーク・発表) 事前学習:テキストの第3章第2節(2 思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:「説明的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2 時間)					
第7回: 教材研究の方法と学習指導案作成③「書くこと(書写を含む)」の教育 (グループワーク・発表) 事前学習:テキストの第3章第3節(2 思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:「書くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2 時間)					

第8回：教材研究の方法と学習指導案作成④「話すこと・聞くこと」の教育（グループワーク・発表）

事前学習：テキストの第4章(3)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。

「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間)

事後学習：「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間)

第9回：教材研究の方法と学習指導案作成⑤「知識及び技能(言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化)」の教育（グループワーク・発表）

事前学習：テキストの第3章第1・2・3節(1 知識及び技能)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間)

事後学習：「国語の特質に関する事項・伝統的な言語文化」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間)

第10回：模擬授業と省察①「読むこと」の教育(物語教材)（実技・グループワーク・討議）

事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)

事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想(良かった点・改善点)をまとめておく。

自分が模擬授業を実施した場合は、指導案と授業について各グループの評価表を参考にしながら見直し、「協議から」と「感想」の2項目を付け加えて指導案を書き直すこと。(2時間)

第11回：模擬授業と省察②「読むこと」の教育(説明文教材)（実技・グループワーク・討議）

事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)

事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想(良かった点・改善点)をまとめておくこと。(2時間)

第12回：模擬授業と省察③「書くこと(書写を含む)」の教育（実技・グループワーク・討議）

事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)

事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想(良かった点・改善点)をまとめておくこと。(2時間)

第13回：模擬授業と省察④「話すこと・聞くこと」の教育（実技・グループワーク・討議）

事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)

事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想(良かった点・改善点)をまとめておくこと。(2時間)

第14回：模擬授業と省察⑤「知識及び技能」の教育（実技・グループワーク・討議）

事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)

事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの評価(良かった点・改善点)をまとめておくこと。(2時間)

第15回：指導と評価の一体化(評価を指導に生かすための具体的な手立てと工夫)（課題解決型学習・発表）

事前学習：「初等国語教育の課題と展望」についてテキスト「初等国語科教育」の第15章を参考にしながら、ノートにまとめること。(2時間)

事後学習：テキスト②の第15章や図書館で調べたことを参考にしながら、「①この講義を受講して、具体的にまなんだこと②学び続ける国語教師になるための努力事項」についてノートにまとめること。(2時間)

成績評価方法

学期末レポート(50%)、授業内の課題レポート(30%)、模擬授業の発表内容(20%)

成績評価基準

基本を踏まえながら、児童の国語の力の育成に資する国語科学習指導案を作成し、実践することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述：)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール

□ その他(具体的に記述：)

3)小レポートに対するフィードバックについて

- ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

- ☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて)

- ☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール
☐ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(元小・中学校教諭)

・実務経験と授業内容との関連性

(小学校教諭・中学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容およびその指導法について講義する。)

テキスト、参考図書

- 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』 文部科学省、東洋館出版社、平成 29 年 3 月
 - 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成 29 年 7 月
 - 『MINERVA はじめて学ぶ教科教育 1 初等国語科教育』 吉田 武男 監修、ミネルヴァ書房、平成 30 年 3 月
- 参考書・参考資料等
 小学校国語科教育法(牛頭哲宏・森篤嗣著 ココ出版 平成24年)
 小学校教育課程実践講座「国語」(樺山敏郎編 ギョウセイ 平成29年)
 文学教材を深く読むための国語授業デザイン(三好

その他(受講上の注意)

準備物については、その都度指示します。

指導案作成と模擬授業は個人でします。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。